



天保  
新增

西國順禮道中細見大全

此の書は... 西國順禮道中細見大全... 天保... 新增... 西國順禮道中細見大全... 天保... 新增... 西國順禮道中細見大全...

特別  
N3  
3617  
69





春子庚午 一十保元

西國禮儀細見大全序  
三十二所の堂場から  
此書に載るべき  
書肆通商軒から  
俣野の  
経  
高  
巻  
古  
大

本按刊精 園書松翠

執

撰

増

修

西國禮儀細見大全序  
三十二所の堂場から  
此書に載るべき  
書肆通商軒から  
俣野の  
経  
高  
巻  
古  
大

大冊







増訂と加へ名所旧説と要して元録こ  
 庚午年 公の御免と蒙りてまつりて  
 物不極りし中流布するもの物不令致  
 かのお海居土日の年を切の乃中記かびお  
 本小年の乃中記振り推式書時又も書  
 徳文よりこれの自今以後平書も書  
 實事記しるべしと自ら書きたる書  
 とも中記の書は物なる年記は次  
 記し物方ゆりし中記大冊海もよの板  
 中書出は者らんあつて天啓有縁の著  
 ちやうの乃中記しるべしと自ら書きたる  
 此方名所の書は中記とありし書と  
 希念をけりし中記ははるばる西法園  
 乃中記も北海法の乃中記は今時あり  
 るがちやう板りし乃中記の書も希  
 るが乃中記とありし書も希なりと

目録

- 一 順禮中書一 細札書
- 一 皇女附住帳一 乃中記
- 一 道中抄一 乃中記
- 一 道中抄一 乃中記
- 一 三十三所御歌一 乃中記
- 一 準提陀羅尼一 乃中記
- 一 系抄一 乃中記
- 一 大坂一 乃中記
- 一 日大和越田丸乃中記
- 一 日乃中記
- 一 江戸一 乃中記
- 一 乃中記
- 一 乃中記











順徳中承久二年

西國三十三所巡禮のゆゑを以て  
 人々を六十八代花山院法皇御孫十七  
 歳として皇融院の儀を以てひふた  
 二年十月十日御即位ありて  
 帝ふくひき御依りくくるお前  
 弘徽殿の女御をせさせまひくはせの  
 んくろふと事を執り寛和元年六月  
 廿二日夜私小王宮を潜出させまひ  
 花山寺に入居御とすは是を以て  
 と申すまより慈母形智心と  
 らせ給ひ臨伽の注水とたてて  
 とはひ二密の智火をかかげて  
 の言をとりしとせが後へは

す甲てかりゆめ威威法をこれ  
 小慈母形智心若て日本世  
 花山寺なるものまより一  
 やとて歎きとは是を以て  
 かたをのたや世ありけ  
 朱宮山の姓を上人と  
 流のは是純日曼陀羅と  
 性や御  
 の流を本佛の要法ありて  
 んと周との回法婆を  
 観音の無地三十三所あり  
 是十方佛法佛降降の淨刹  
 有縁の諸地あり一方  
 と是等の飛業を滅す







○ 奉納西國三十三所為二世安樂

南無大慈大悲觀世音菩薩

○ 奉納西國三十三所為二世安樂

年月日

同行何人

奉順禮西國三十三所

國所

名

西國三十三所の種字なり但  
外入奉納をより入はたけの種字を  
入ておんこころのいへりておんこころの  
ぬいかにておんこころのいへりておんこころの

西國三十三所の種字なり但  
外入奉納をより入はたけの種字を  
入ておんこころのいへりておんこころの  
ぬいかにておんこころのいへりておんこころの  
みいへりておんこころのいへりておんこころの



西國三十三所の種字なり但  
外入奉納をより入はたけの種字を  
入ておんこころのいへりておんこころの  
ぬいかにておんこころのいへりておんこころの











必麻むこの漢うそおせうらうら  
 一死うそお給食まふうそ食はん給ふ  
 立契し死格ふまふら心あつて  
 立むものやううまあり

一化とゆる経の事かゝぬ身は世の世

小かゝぬやうふんがうた

一毎々の勤むとらうらうら勤むは仍の

心まうせふ親善経多件世三所修欽

ホ勤致く父母先親親教をくめ三

界万美一切衆生の名代ふする勤

心なう至んふまうらうら

一道中精をすべし中ま礼細の目計

精進する人あれども教くを精進を

よ一予も然神波多圓こそ中念の

とれ魚と念くどめ夜阿多新小泊

一が勞供と今只精をもせざり

とものをとも悔意の心物取てまは仍の

勤せはなきおまの悔くをまへんのら

かく精をせくま勞供つたときも精

ともするといふまふまふあつて自分

と知して勤むおとらうなまあさ

一合まま生し大酒をほりて

一男女たむむらうらうらとほへ

一教中常を毎毎うらうら用ん無

一らうまふれとゆらうらうら踏浪と

こゝろまてうらうら人んらうら

一をらと業因するもの有とを根を

たけうらうら去奉杖掃たてて山中











十番

山積の石 *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

十一番

日 *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

十二番

日 *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

十三番

日 *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

十四番

日 *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

十五番

日 *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

十六番

日 *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

十七番

日 *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

十八番

日 *Indicivus*

*Indicivus* *Indicivus* *Indicivus*

十九番

日 *Indicivus*



The  
first of the same

二十番 一

second of the same

廿一番 一

third of the same

廿二番 一

fourth of the same

廿三番 一

fifth of the same

廿四番 一

sixth of the same

廿五番 一

seventh of the same

廿六番 一

eighth of the same

廿七番 一

ninth of the same

廿八番 一

tenth of the same



がみだらふもあつたのほしや

廿九巻 日 十のりごころ

そのかゝるいふもなむいんたのぶ  
らふかゝるいふもなむいんたのぶ

三十巻 あかちんごころ

月と日となまふふらふらふま  
ふねふたふとけしつらふま

卅一巻 日 ちゆうめいご

やらふやふらふらふらふらふ  
こころあつたのがごころ

卅二巻 日 くらんごころ

こころあつたくらんごころ  
こころあつたくらんごころ

卅三巻 日のたふごころ

こころあつたひごころ  
こころあつたひごころ

あつたひごころあつたひごころ  
あつたひごころあつたひごころ

あつたひごころあつたひごころ  
あつたひごころあつたひごころ

廻向文

種々重罪 五逆消滅

自他平等 即身成佛

南無大慈大悲觀世音菩薩

れうつたあつたをこころ







三都より伊勢  
矢出する中

宿の町  
▲間の宿の町  
●とて甲斐の町

京都より糸文乃信

▲三系太りより大津へ

二里余 百拾六文

▲瀬上。日暮市。▲奴業屋

▲横本。わりと物なり。▲あひら

▲大系。○あまら山。▲さびな境

▲大津より大津へ

三里半の所 八十七文

▲いしむ。まをいぬりま

▲猪野城



六万石 本多下總守

江戸より 南八町堀 百廿里半

○あづが原。▲高井川村 川あり

○たけのへん山 観音寺

○せご小橋 世々のへん太り九十九あり

▲月輪寺。▲矢くら

○うがが峰。まをいぬりま

▲さくらより 石部

二里半の所 六十八文

▲月川村。まがり川

▲うらね村。川あり

▲いしより 水部

三里半の所 七十五文

▲あまら山よりまをいぬりま



○おら合川 白紙川も。さうり川

▲かろを村。あろ川

▲田川村。横田川もさう

▲泉村。さうを村。



加藤能登守

二万五千石  
中山小路  
江口  
百九里

▲ふらより 土山、

二里半十一町 六十き文

▲栗林村。今在家村。いよ川

▲大井村。そい中。いよ川

▲松のそ村

▲土中よりさうの下

二里半 百こ文

▲あま村 入口多し 入るは

▲東立城。田むし川 きりくを

▲おの鼻村。よの本

▲そい伊勢國松立城

○新麻山。え所。

▲坂下より 関、

一里半六町 百十三文

○さう川 ▲水掛村。かろの本。

▲新栗倉 新栗倉とよ。一のせ川

○ほろ大和 ほろ大和とよ。誠とよ

▲せごころ 植系、

一里 百十三文

○増養堂。こさた町。お井村

又諸のちらもさうのちらもさう

東海乃太の旁を居あり



○せせ川 川をい  
三十九

▲楠糸より ひこみこ、

一里 併  
四十八丁 十九文

▲とや村。子系川

▲採中より くろこ、

二里 併  
五十八町 二十九文

▲たのたの。たのの ▲たのの

○とよの 銚子 ○のさき

▲久保田より 津一、

一里十八町 十九文

○くろ川 ▲あり村。せせ川

▲津より くろく

二里 十九文



世二万三千九百五十五右余  
藤堂和泉守

中  
向  
江  
百  
二  
里

○つと川 ▲瀬戸堂

はるの出を かき

津より三里。 かき

○中つ。 中津

香良洲大神

一里 併

○り 併

○大津村。中津村。市場

とよより 併

▲とよ

▲とよ

▲とよ



二里 廿八丈

○くも川。月本村 たりのくも 大和のくも

あやまるといふ怪をえ  
くものも物るかぎり ▲くも

▲雲坂より 小くも

に里八所 七十三丈

紀州御持城御城代を

○大くも。ひんちゅう川。いし川

▲さくら村。くも川。いし川

▲新めづやう

▲とくもくまう 田、

一里半 十に丈

○そのの川。文川あま

○中川系。くも

○本居

○一里半

外宮 豊受皇太神宮 とようけみかみ

○間の山 本名尾勢坂と云  
又十丁

○宇治

○一里半

内宮 天照皇太神宮 あまてらすみかみ

○新結并二丁

▲さくら村より新結六十町

○宇治。一宇田岸。麻海村

○あま

○勝峯山金剛池寺 しやうぼうざんこんがうちうじ



三ノ里より二ノ里迄

。三ノ里村。。四ノ里村。志和合  
。山九つ。。三津村。二ノ里

○大坂より三ノ里迄

▲大坂より 三ノ里迄

三ノ里 百廿六文

▲三ノ里天保

▲牧方よりよど、

三ノ里半 七十三文

▲よどい ▲よどい 十廿丁

▲よどより伏見、

よ十町 廿六文

▲よどより大津、

四ノ里八町 八十四文

。系ど。ふらの。大あ谷

。神中村。追分

。よより大津半のり

○日大和紙田丸御所

▲三ノ里松原、

三ノ里 六十九文

▲玉つり 中みら 本庄村

大今里村 ふう村 三井岡

三ノ里 みるや村 吉岡

ひやま じい村

▲松つり たら、

三ノ里 百廿九文



中ノ村 ちゅうむら ことひ村

さうむ村 さうむむら かつらむ

▲ふらのと ▲とせ村 ▲とむら

右の芳 山 あり

つらむら あり

▲奈良より なんと市、

二里

半文

▲むらむら 地 あり ▲ふらのと

○そのまゝ。川がうら あり

▲丹波市より 二二、

二里

はあう あり

▲柳

▲みこより 二二、

一里半

▲志保村。あり

▲砂津より 二二、

一里半

人七十文

とむらむら あり

○とむらむら あり

あり

▲奈良より あり

又十町

○れのまゝ あり

あり

○とむらむら

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり



▲あづかきこり

▲田舎、六十所

▲いさろ村

▲田舎、より

▲山、一里

▲岸下

▲山、より

▲の、一里

▲す、の

▲さ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲三、の村

▲下、の村

▲名、の川

▲名、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の

▲あ、の







▲津奈川より ねがや、

一里九丁 卅十文

▲あやぶのたのひあまのりあり

▲あひまひ ▲大ふまとうらあり

▲ほごが谷より どのり、

二里九丁 又十二文

▲さうの本方 こま ▲志々の坂

▲より田橋よりたのまがやうあり

▲たはりより ぶらさか、

一里世丁 卅十文

▲とくろ名 ▲かけより ▲田げう坂

▲あまの橋よりたのまがやうあり

▲瀬川より 平つり、

三里半 あり六十文  
より七十八文

▲東田ののり、一リ半

▲にッや ひより大ふら

▲ふださ。 ▲なんともあり

わし十文 ▲やまこ

▲新塚より 大のそ、

廿七丁 十八文

▲ととむ

▲大のそより 小のつり、

にリ 九十文

▲小のそ 志々の坂 ▲あひりら

▲こくぶ 新島 ▲うめ沢村

▲さうそ川あり

▲小田原より どのり、

にリ八丁 より卅八文  
より卅五文





十一万三千百三十石 中まき 増上寺海手  
大久保加賀守 江戸ヨリ  
二十里

▲風まろり ▲田りや ▲はまも沢

▲とくみ ▲光がかり

○ひざりこ とこひこんがくのや  
お根控理

▲さの川

御関所 くらむらぎ

▲お根より 三ノまよ

三里八丁 よりお根八文

▲とてべつ お根

▲山形村 ふじこ

▲この家 はう系 ▲明神

▲こしぬ

弁才天 社名

▲こさるより ぬまの

一里半 三十四文

▲きせ川 ▲きせ川村 ▲新田

▲沼津より さくら

一里半 三十四文



五カ所  
水野出羽守 辰のいし角

お根  
廿九里半

▲千代河 ▲みえとせ 千代もろり

▲あけの ▲大つら お根の

▲原より よう系

三ノ六丁 六十五文

▲森内河 ▲一本堂 ▲いけ新田

▲よる新田 うきま ▲大の新田

うの お根 ▲はら谷 ▲えり系



▲てら河。

▲うし系より かんざう、

二リ廿丁 七十回文

▲えつらぶ 下川ふ十六文

▲いそざら ▲系河

▲蒲系より 四い、

一リ 卅十回文

▲ある河 ▲新河

▲中井より おさう、

二リ廿回 七十九文

▲おわ川 田子の浦たてうたふ

▲あさ次。さうと岸 おきう川

▲系立む

▲無津より 忽どと、

一リ 卅十回文

○このふゆ十三リ

▲清分余村

清分寺 寺領二百坪

やそめ川たうと保程

一里廿丁 日明津

▲ちやがら

▲お尻より ちやう、

二リ廿七丁 六十八文

○ろくせふや二リ系

▲いさひ河 ▲いさひから二保の

松系 清水とらふ知よりめ、

のうかり

▲平のつせ ▲中のどう ▲やうと



○よこさ村のしづり久保山

▲府中より 三十九丁

一リ半 四十丁文

御城代 河の志をあらわすの所

▲こらく ▲あづ川 川をさへ水の

▲ふぶく ▲下宿

▲すうのこより おぶ、

ニリ 七十文

▲まろじし たつこのわをる

▲うの山津 とつトリ

▲岡 釣より ふぶえと、

一リ廿九丁 二十九文

▲小坂のまや ▲水より ▲さくら

たこ田中のまらちをのり



本多眞前守

四方石 十丁の月 江戸ヨリ 四十七リ

▲飯 枝より ままぶとへ

ニリ八丁 六十九文

▲川 せし所 ▲せし村 せし川

▲まらぶぬ ▲東さぶ

▲ゆき 同より かなやへ

一リ 又十八文

▲こやのあ ▲むらぶぬ 大井川

大水のとき人は入九十九文

▲あて大水のあみ尾の白はよ

▲金 谷より ころさうへ

一リ廿九丁 七十文

▲まらぶじ ▲ささうきく川



日村宮下と申すやあつことよのゆゑ  
いゑののみ ▲こてが

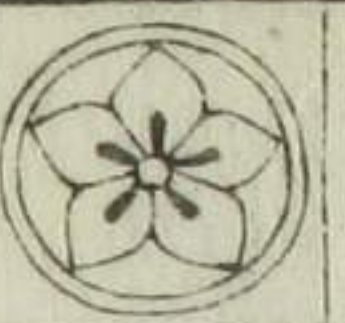
▲月坂より うけ川へ

一リ廿九丁 四十七文

▲古きや ▲山ごま ▲大坂所

▲掛川より ふくらおへ

二リ十六丁 又十六文



大田備中守

江戸ヨリ 五十九余

▲十九番所。ふとせ川

川をわたりて右の方松葉山宮

▲こら川 ▲かたより あさるる

▲徳井より 又はけへ

一リ半 二十又文

▲出口とてバ。▲あき田 ▲こらの。

○ 又村とて。あさるるのうらうら

さうあさるる

▲東さう

▲え村より こんど

四リ八丁 百十七文

○ ちうさう川くをるる

▲大やあき村。よとすうらうら

▲長りり ▲いけご

○ ちうさう川 あらんた田文

大水よみ十丁川うら  
あ安村よとて

○ かやんとのたこ本坂入のたこ。

こららのごう、あ

▲茶畑新田 ちう松葉山宮



▲大津町。

▲淡島より まいさうへ

二リ三十丁 六十一文



水野越前守

六万石 日は谷あひ日 江のヨリ 六十丁六十丁

▲七ヶ所 ▲とてむ ▲志のり

。かうしんを。

▲弁坂より あき井、

一リ 船さうし 十文

御関所

▲あき井より 志のりへ

一リ廿六丁 三十九文

▲とてむ ▲えきより 志のり

▲白波屋より 志のり

一リ十六丁 三十三文

▲らぐり 志のり

▲とてむ 志のり

▲志のり

▲二河より 志のり

一リ半 三十九文

▲あき井 ▲志のり ▲志のり

▲志のり 志のり

二リ半丁 又十七文



松平伊豆守

七万石 十きやうし 日 七十二丁

○志のり 志のり

▲志のり ▲志のり ▲志のり

○かけまはし 志のり



くろく風見寺くハリ

▲又井坂

▲柳<sup>だ</sup>池<sup>いけ</sup>より あつらうへ

十六丁 十町文

▲本の下菜屋

▲赤坂<sup>あか</sup>より ふら川へ

二り九丁 五十一文

▲あつらう村・▲かひの丁

▲坂<sup>さか</sup>川<sup>がわ</sup>より おうききへ

一り半 三十九文

▲くそ切 ▲かんじき ▲太い村

▲かけのぶ

▲お<sup>お</sup>寄<sup>よ</sup>りより ちつらうへ

三り世丁 八十六文



五万石 本多中務大輔 増上寺切巻 江戸ヨリ 七十七り

○やとれの橋<sup>はし</sup>百八分

▲大<sup>お</sup>なる<sup>なる</sup>や ▲牛<sup>うし</sup>田<sup>でん</sup>村 ▲くそ切

▲池<sup>いけ</sup>鑿<sup>り</sup>鑿<sup>り</sup>より かなくへ

二り世丁 六十一文

▲あてむ ▲いほやう ▲いり川

▲あつらう村 ▲せむら村 ▲くそ切

▲鳴<sup>な</sup>入<sup>い</sup>より かんやへ

一り半 八十五文

▲かごもろん村 ▲つぎで西<sup>にし</sup>へ

▲くまより くまへ

七りのくまへ ちらんまへ  
はつた文が 日<sup>ひ</sup>市<sup>いち</sup> 六十六文

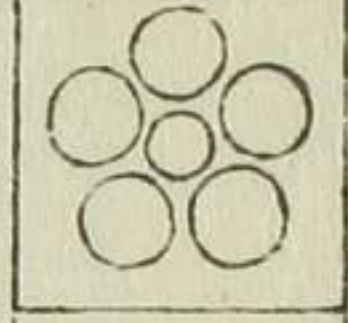


○ 佐屋まわり

▲ 三やうのつうへニリ 四半匁  
 ▲ 岩塚ようまんむへ半リ十匁文  
 ▲ 万崎ようかんりく 九半三十九文  
 ▲ 林崎ようさやへ 九半三十九文  
 ▲ 佐屋ようこまへニリ 下七十九文

▲ 桑名より 日目のりへ

三リ八丁 百八文



松平越中守

北八丁より 九十四文

▲ 矢田 ▲ 所家川 ▲ あつげ

▲ まつる ▲ 東とんど ▲ かつ所

▲ 日田市より かくへへ

三リ 七十一文

川あり橋のちあ後ふあやあり

▲ ところむ ▲ さまり村 ▲ おひか

とせ紀別紙

○ 日田市よりみす丁すまのちある

たゝふの華表ありいせり

川ありあゆふあや

▲ 津和より あつこへ

一リ半 四半匁文



本多伊豫守

一万五千石 新暦の月 白屋ヨリ 百匁ヨリ

▲ 白子より くのへ

一リ半 四半匁文

寺家村 くらまを



▲上野より 津へ

二リ半 四十九文

▲榎が次と江戸がうまておの  
 系らたいたいふ事を

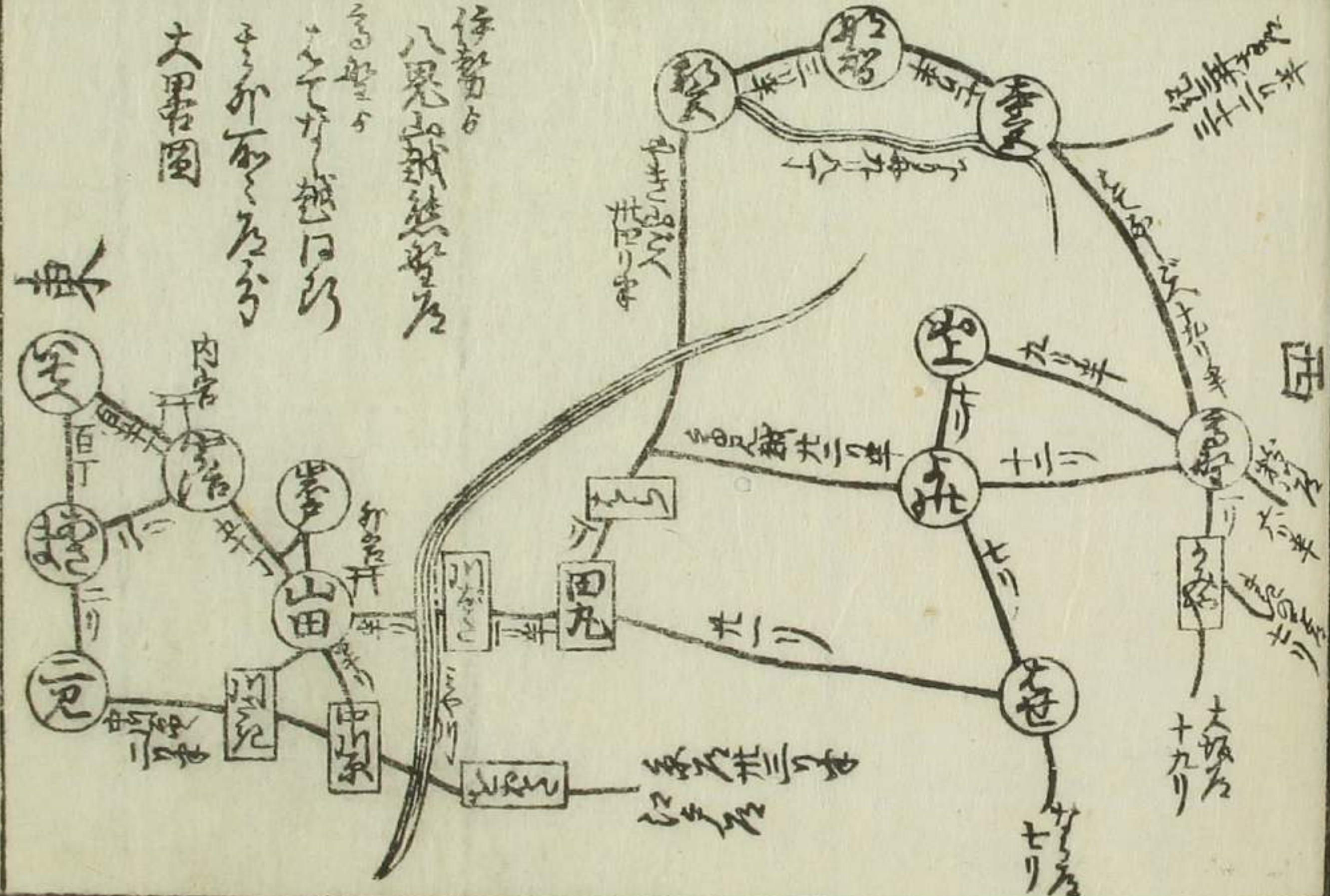
▲扇と足より所づき津の  
 入口と田舎の寺の主人の事を

▲津より 上野へ

○上野より伊勢の事又も  
 あり義文の乃のり  
 又もふん

○日本橋より伊勢山田と  
 なる法

九百十八里二千三丁



伊勢の  
 八鬼山越越登る  
 ことな越は  
 ことな越は  
 大黒園



○八鬼山紙懸野道

伊勢山田を紀及懸野界二坂近  
世六町一里の定之松を併けたり  
官道不ゆふ其石を古集より  
いひ傳へての實教してすこの長  
短あり旅人こまをを歩んべし

山田をすりき

川端柳

宿体又げれ  
おひつと住み

山田を越す橋より大切なる石小  
俣下の後へ切なり橋よりすべり  
川を越す上のまてへ切なり断

つきまきく道

上下の後とを  
舟らんを掛

川端を六十丁

田丸

味下之宿体  
けりもあつ居

田丸

川端をよんど村

上池村

田丸新田を  
宿体

田丸砂儀石長橋田丸多々大石町  
赤石の大和細瀬をたけの懸  
野る又石の懸を好むる

野原村

赤石の入口本を吸孔た引  
観世音西正孔不始り

原を

あふせ

宿体

原大辻を六十丁下して岩布村の  
中不立石あり右の言見越  
野。高野をたけの懸野をたけ  
鳴川村をよりあつと作るをたけ  
さひり新たをたけをたけ

相麻

くら原

宿体

子代村

柳原村

村中

ひつとをたけ







表の山より入て西面西の山より  
ゆけ針跡つらり通りしは表を以て

まこと宿ありしをその名小坂名  
あり、向後村入京川あり、向後

ふん左の山根をとり柏野を以て  
阿野を以て **かしの** 宿体

け岡村里あり山根を以てあり

柏野村入京川あり、向後の山を  
柏野を以て **さき** 宿体

柏野村入京川あり、向後の山を  
崎村あり **こま村** 宿体

向後の山根を通る柏野を以て  
柏野を以て **ま白** 宿体

向後の山根を通る柏野を以て  
大津 **大津** 宿体

大津を以て **梅ヶ谷** 宿体

梅ヶ谷を以て **梅ヶ谷** 宿体

梅ヶ谷を以て **梅ヶ谷** 宿体

二板峠より十二丁 梅ヶ谷宿体

伊勢山田を以て **梅ヶ谷** 宿体

行上の山 **梅ヶ谷** 宿体

長尾を以て **梅ヶ谷** 宿体



一石碛 古里村 宿一軒あり

船坂 是河津村 三浦峠あり

三浦と一り 宿あり

と下りて坂と下 け所村里あり

る瀬と一り 宿あり

上里村 宿あり 入京川の宿あり

渡瀬川の上より宿あり

中里村 宿あり 川の宿あり 但し川

の宿あり 是の宿あり 宿あり

あり け下り 船の宿あり 是一り

宿あり 宿あり 宿あり 宿あり

船を渡らるる宿あり 宿あり

宿あり 宿あり

船津村 宿あり

おのち一り 宿あり

宿あり 宿あり

川上 宿あり

宿あり 宿あり

宿あり 宿あり

宿あり 宿あり

宿あり 宿あり

宿あり 宿あり

宿あり 宿あり

尾籠 宿あり

宿あり 宿あり

宿あり 宿あり

八鬼山 宿あり

宿あり 宿あり

日輪寺 宿あり







町の出口川を海陸とはある時  
へり汐のち通る次は海をさす十  
七八回半の先言ふあるまは松原の  
二里ふらふ西いづら村の花の  
といふ大忠に連て中へありあま  
ふ松原をあり毎年二月二日  
をありあり

有るま二りり **あごこ** 宿

御及の七里ぐとぬの無松の宿とぬ  
有るま十町ぐらいてあるま  
松原の中へは松原なるま系川  
海陸と流る親志すすらぬ  
とれた海にありあまを  
有るま二りり市本村名をいありあり

有るま二りり

阿田和より **井田** 宿

阿田和川を満とさるまは  
川と中へは井田村の中松原  
越てよれた宿あり

井田より **新宮** 宿

宇和野村橋にあり  
川流るけい平流ありあり  
阿そと流人の名あり  
丸切のちとこを  
ゆね文水傍にありあり  
け川にありありありあり  
越てたより方新宮市は入り  
早小細流ありありありあり



新官部社屋所長之向

第一 速靈官

第二 修靈官

第三 澄煉殿

并日 恙 宮

換社公代 但九井

深附之文

厚之文

見之文

子之文

十之文

一之文

知信之文

知信之文

伴笑法音

伴笑冊音

國常立音

天恩古神

伴放一棟之別

天恩德身音

瘦く梓音

長く出見音

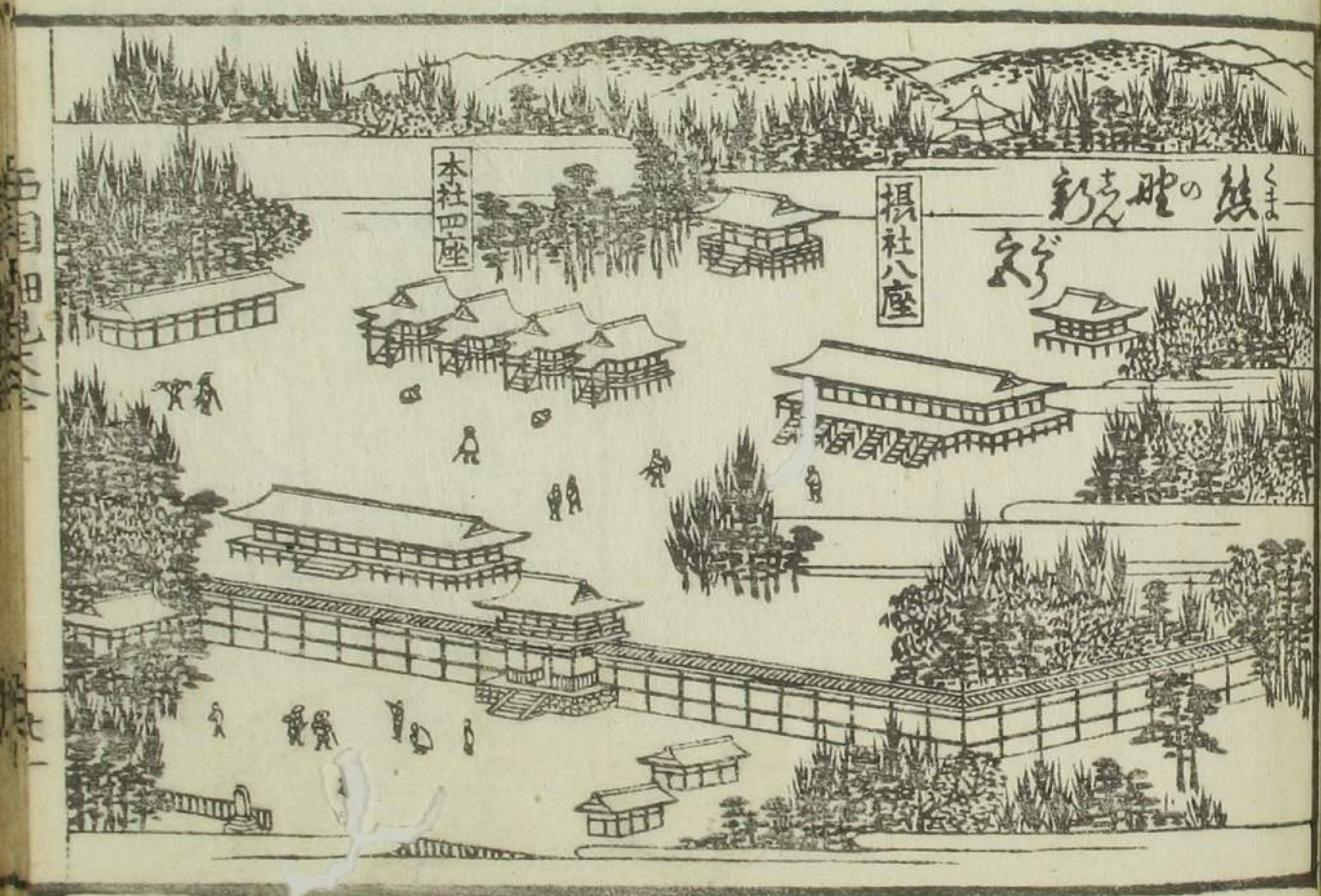
結語音

長く神澤音

國狭越音

匠土煮音

大戸通音



西田大

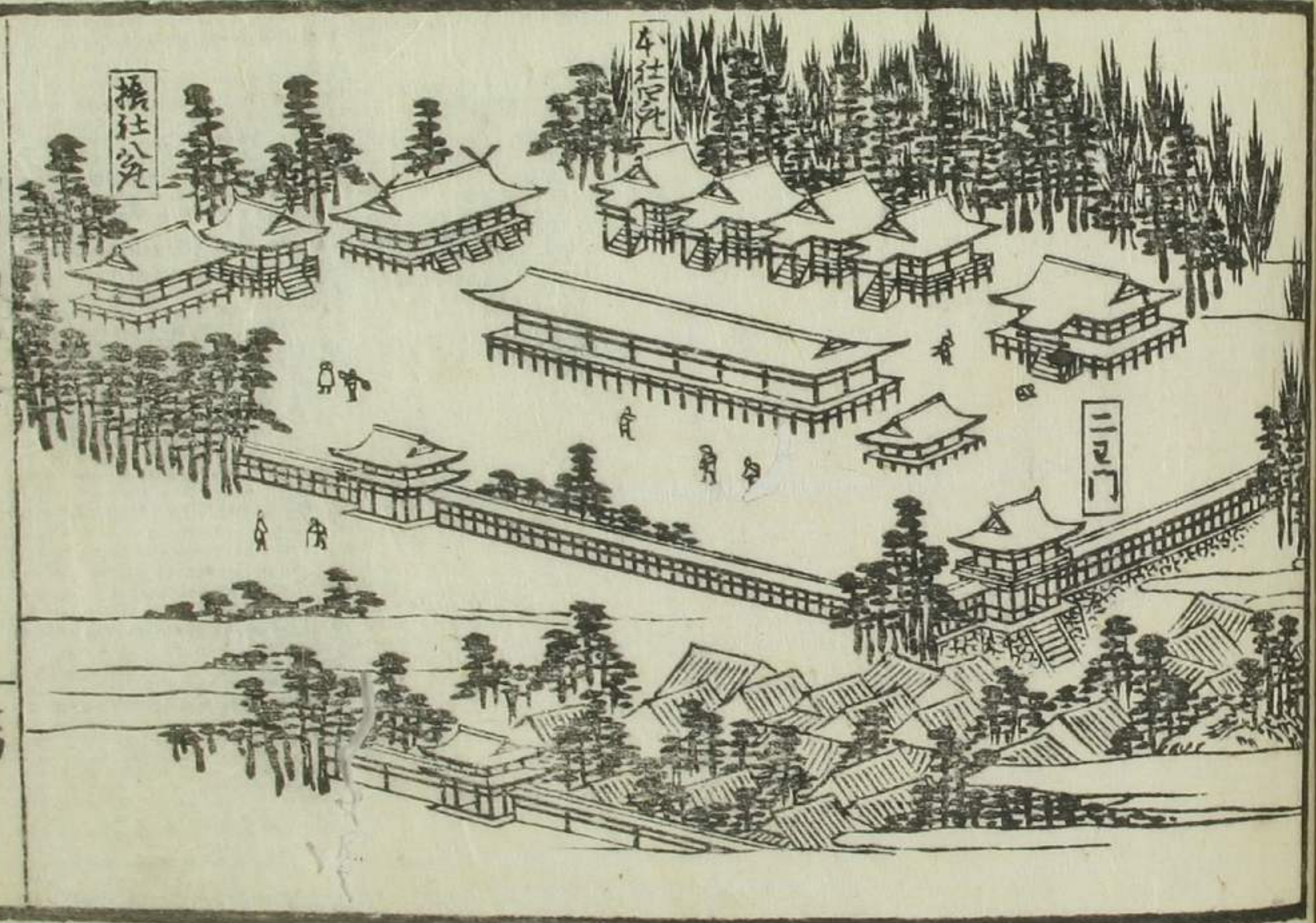










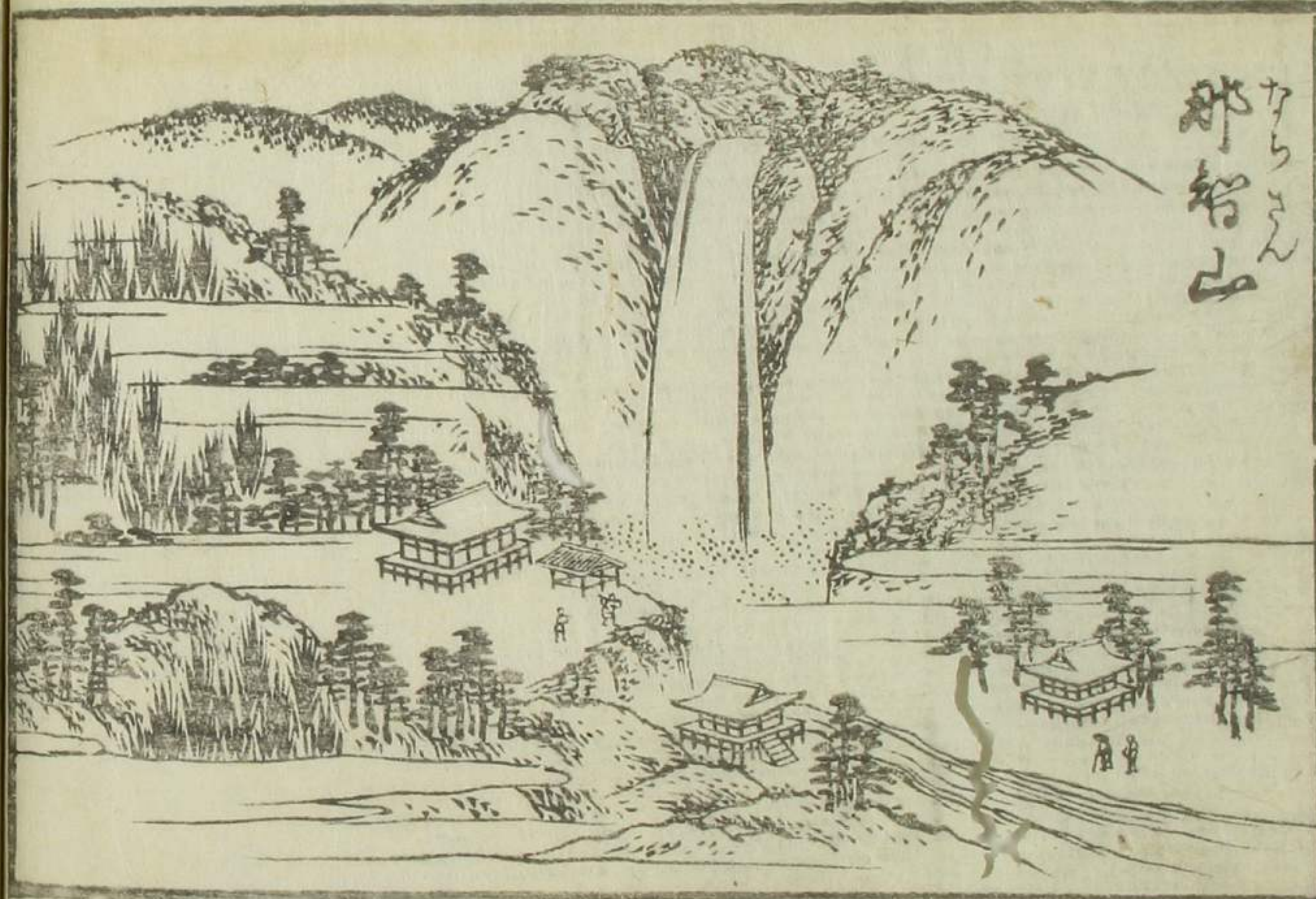


横社

本社

二門

からん  
那智山



西国紀身大全

七



けと備うちま下小親吉の侍と評す  
事をおんまて何の事とあしき  
利登あり是も思儀の成り具する  
おをすものともあす

井ノ村

一ノ村

那智山下る所本社にて坂路

十八町目丁二二五門あり

額 日本第一大靈験なり

二よりと今之の方八町あり

此の主人小拜訪すと千の親吉不知

明日や深明之木の寺あり花山院

法堂の西層室れは二の院とめを

輪乃院と号すのほり不有し

一番

紀伊國那智山  
志保教護寺

堂辰巳何又の面  
文治八年と  
子七百二十九年



女若如玄輪親善長八寸金像

高山如を勝遊より出現奉法

半解男命の布化佛と中宗

開山裸形上人法思法所建立

方今に十軒余一國のあつと定

て東海に送られし御影のあつ

小海に宿坊の御影のあつ

他、幾國の御影のあつ

御影の御影のあつ



秋の傍をみるの事け不辨  
と清くうし物もはばけ度あり

柳亭はははははははははははは

赤の如 池城故 國常五音

赤の如 中水音 伊勢法音

赤の如 西水音 伊勢丹音

赤の如 第一音 天照志林

赤の如 八音 赤九林 赤向一音

赤の如 彈御音 思徳再音

赤の如 聖文 増く梓音

赤の如 児の文 長谷出足音

赤の如 子音 華不合音

赤の如 十音 國扶植音

赤の如 一音 泥去音

赤の如 飛の文 大戸道音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音

赤の如 飛の文 西足音





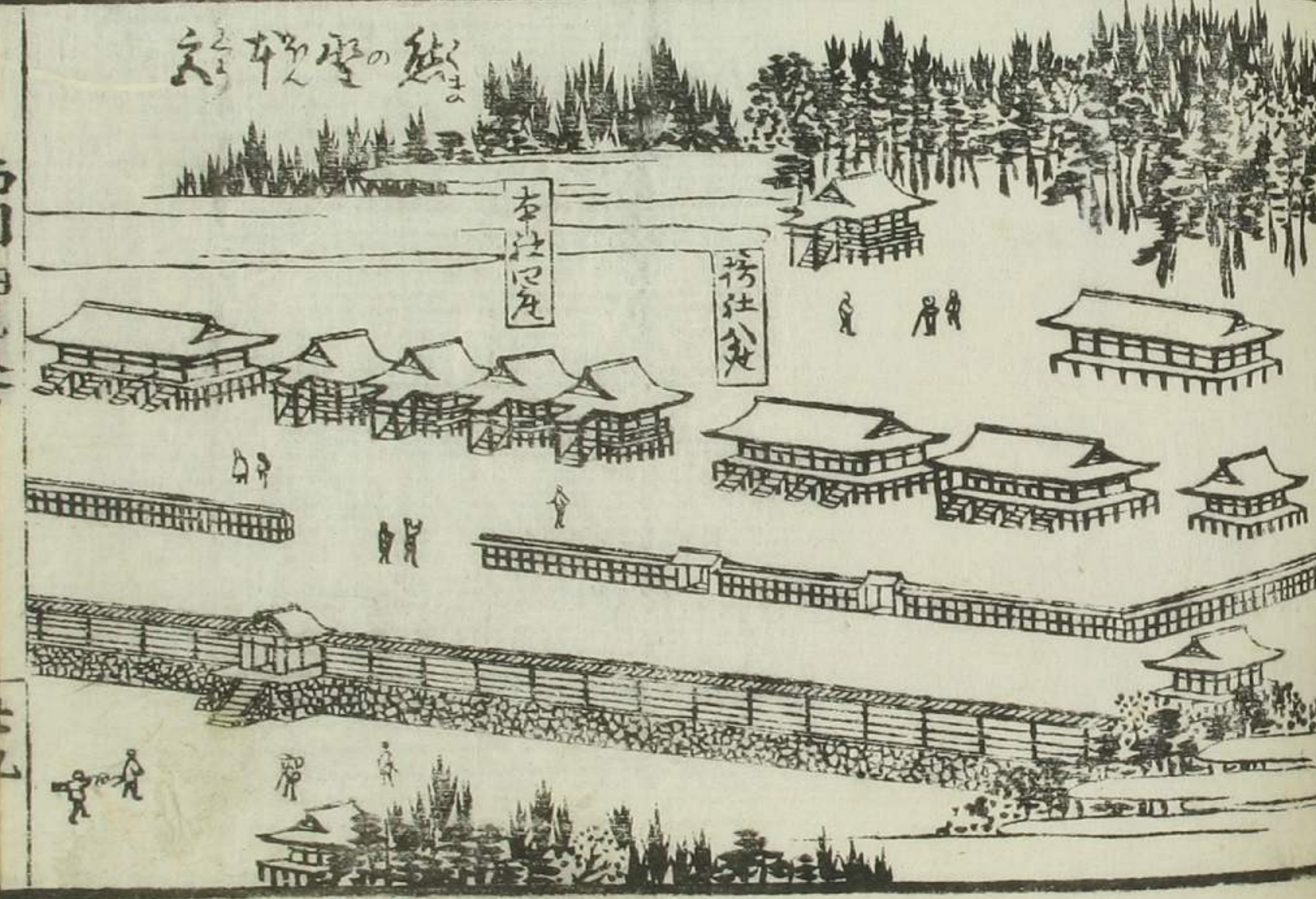






湯のまはらあり一と進くまのま  
<sup>くまのま</sup> 湯のまはらあり一と進くまのま  
<sup>まのま</sup> 湯のまはらあり一と進くまのま  
<sup>まのま</sup> 湯のまはらあり一と進くまのま  
<sup>まのま</sup> 湯のまはらあり一と進くまのま  
<sup>まのま</sup> 湯のまはらあり一と進くまのま

本宮の町中不備國の所作乃宅ありま  
<sup>まのま</sup> 本宮の町中不備國の所作乃宅ありま  
<sup>まのま</sup> 本宮の町中不備國の所作乃宅ありま  
<sup>まのま</sup> 本宮の町中不備國の所作乃宅ありま  
<sup>まのま</sup> 本宮の町中不備國の所作乃宅ありま  
<sup>まのま</sup> 本宮の町中不備國の所作乃宅ありま



本宮の町



奉官所社は凡 他云社辰巳向

第一

伊勢儀音

第二

伊勢冊音

第三相殿

速玉男命

奉解男命

天照志作

振社八社相殿

奉解男命

日小の二丸

八百五社

瑞籬の介 佐吉屋社 地三社

白河院 和泉式部石橋あり

當社いし人の社殿也廊觀々地三

大社ありとと中社殿也又同縁

修遠あり一社ん中社殿也智智すて

是と慈野二社殿也云慈野の半編

後ありと分明なる社殿也志と二西

乃社号の南時社人の後をいりて守

或いふ中社儀也冊音本地の縁迄

新文速玉男命中社儀也冊音

詳男命中社儀也冊音振社八社あり

本地位と付るといせ今をて田を

取代り奉るまて九十九のそ子社を

然地は奉の用とてなす然地を

知信ましく儀渡せり

今御方の御言ふ小社殿と存すも

込の御言あり仍も思ふて存す

本をいふなり

奉るなり

奉るなり

奉るなり



町へ京橋あり川中より湯を汲り  
 けし趣を湯槽へた人浴を  
 兼所の湯より湯槽ニテ而西へ湯  
 湯所へ女湯中へと湯より湯所  
 を人おこえづ

兼所より湯の味をよむ  
 湯槽より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯槽より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯槽より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯槽より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り

湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り  
 湯所より湯を汲り湯槽より湯を汲り



子之 ちの

上見を 宿休

格見作 上り三丁作 兼三形  
坂下りて三形村と申下三形ありた  
其の為申紀と申人すと云ふ也  
常の上みと云ふは是も村中と云ふ  
隔りて宿と云ふは知れぬと云ふ  
宿の宿の中と申すは宿がく下三

二三桶をとり

田也 宿下

三桶をとり 中見す  
との出泉川ありて 百呂村と申  
下三形村と申す 百呂村と申す  
ふありた 紀三井も 田也の町  
ゆるり

田也をとり

又るべ 宿休

沙株 紀三井所家  
大色地通とけし 今を町と  
るて 漢口ふ 牛が 糞と云ふ  
宿休

又るべ 宿休

南形村出は川あり 舟は  
又さへ 峠次は かくら 峠も  
岩代 小坂越て 岩代は 峠  
うり 峠松と云ふ 名も 峠と云ふ  
次 中へ 峠次は 坂坂の 峠田村  
川 峠次は 切取

いなご 宿休



切谷子社 西く子乃中て大社  
うりけ西平治丸のこ平治堂  
野原ありふけをさそ敷の丸  
はてけ社ふき幣一後より敷  
うら平治丸流こ見よりひこ豆

平南を二り

小松原

宿休

津井村 楠井村 宮上野村  
野原村 十三條 榎屋浦

目黒川 舟に城てあり

小松原を二り

原若

宿休

小松原出港をすふりい中街道

あく八町

△天香山 尾末 宿あり

中野親を音海中より出文

天皇の勅状ふりく大正元年  
紀通建立。三重橋 大月如本

浄堂の徳 後傍樹本の中あり

安孫傳 乃事ハ 磯城天皇 延長

六年戊子八月と 本巻の内

下向 乃門をま町半づりえ

成ら太の方十町計り 乃安村を

かろく出る三町地のも

乃安村 乃秋末村 乃本末村

原谷を二り

井園

宿休

原谷村の乃二十丁あり

乃水 乃時 乃坂 乃

乃の津村 乃あり 出は川あり



友の山根とあり井原村の端に出

井原村

湯浅 宿休

井原村 湯浅村

湯浅

湯浅 宿休

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

井原村

井原村 湯浅村

湯浅

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅

湯浅 宿休

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村

湯浅 湯浅村



加茂村一里半

加茂白岩体

加茂谷乃乃一里半 岩掛 市ノ坪

加茂谷の小山ありまゝなり 岩あり

次々白砂より十二丁作地蔵寺

あり山崎の寺といふ事又加茂寺

よりつゞく金屋の寺持主加茂

といふ事あり坂とつゞく加茂村

の社是寺で加茂の地蔵寺

乃傍小終本懸弁此石堤は東の方

旧屋敷ありと終本の石堤今も

是御寺といふ

加茂白一里半

紀伊守 山崎

中田村 日方村 黒江村

け下流あり紀伊橋と製衣と

二番

紀伊國紀伊郡山崎



中堂南の九方四面 文政八年まで 千又十六年家

本寺十一面観音長三尺八寸

上人の化光仁天皇此山ありと

皇仁元年の建立 坊舎七軒 古刹跡十五

○粉川寺へまゐる六リ

日加敷浦へあり八リ 延暦寺

粉川寺へまゐる六リ 延暦寺

大々山にありまゐる村あり又

大社あり細石とあり一里あり

日加敷とあり大社あり境内あり

あり一里あり八里ありの東あり村



足尾川 舟御通 岩出 山 舟御浦 舟御

和歌浦由り粉川通

紀三舟より山あり和歌浦十八町  
毎夜陸路を由り一り

和歌浦名所

いそせ山 孫殿のちみまを

玉海崎 神の塚

伊豆山 かえ山

三ツ子 芦屋菜や

猶灯臺 かつたなま

布のま 怪かま

和歌天満宮 別当 舟御山院

東照大権現 舟御山院

和歌乃里町 舟御山院

和歌浦一り 舟御山 舟御山院

吹上りの浦 舟御山院

橋上り 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

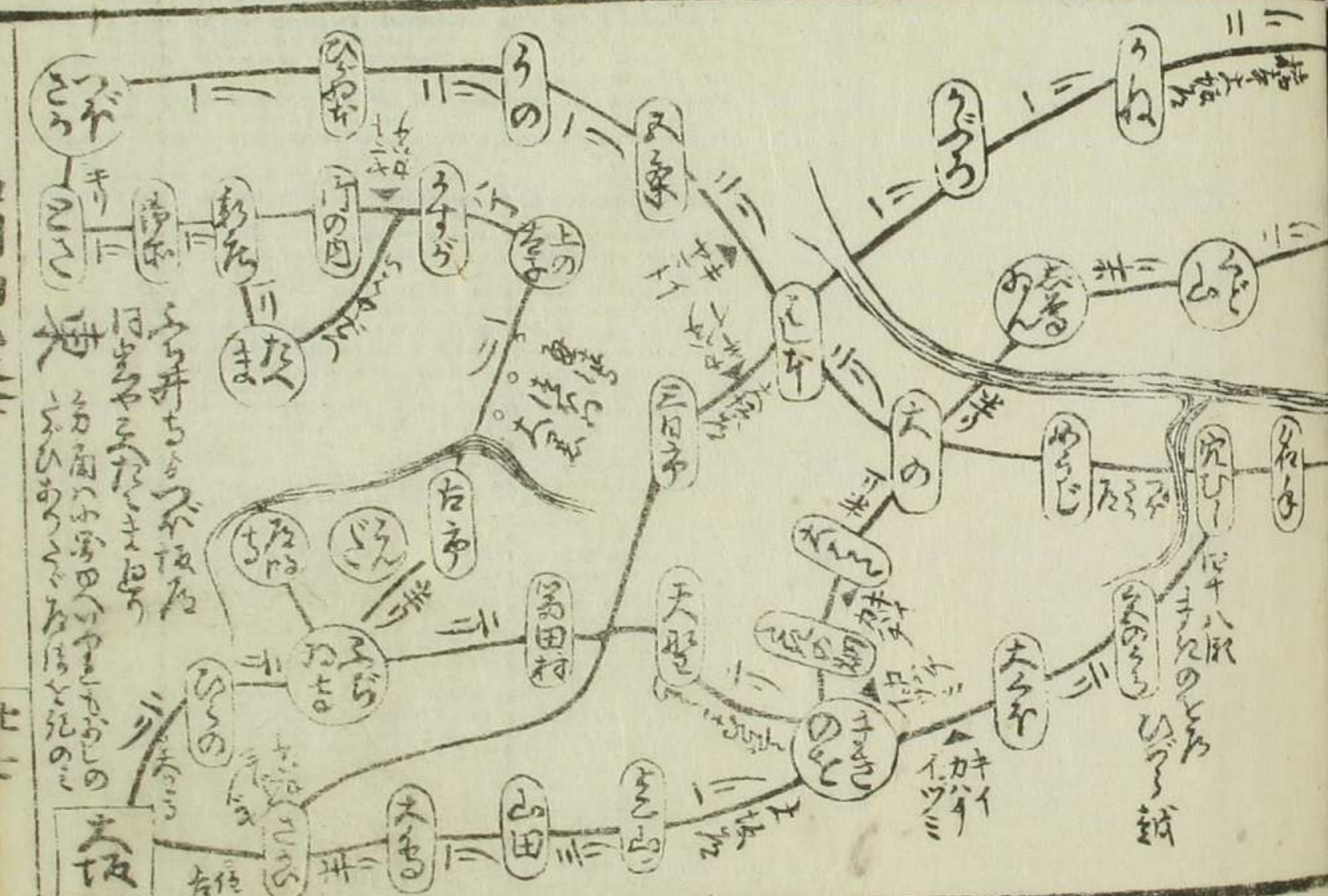
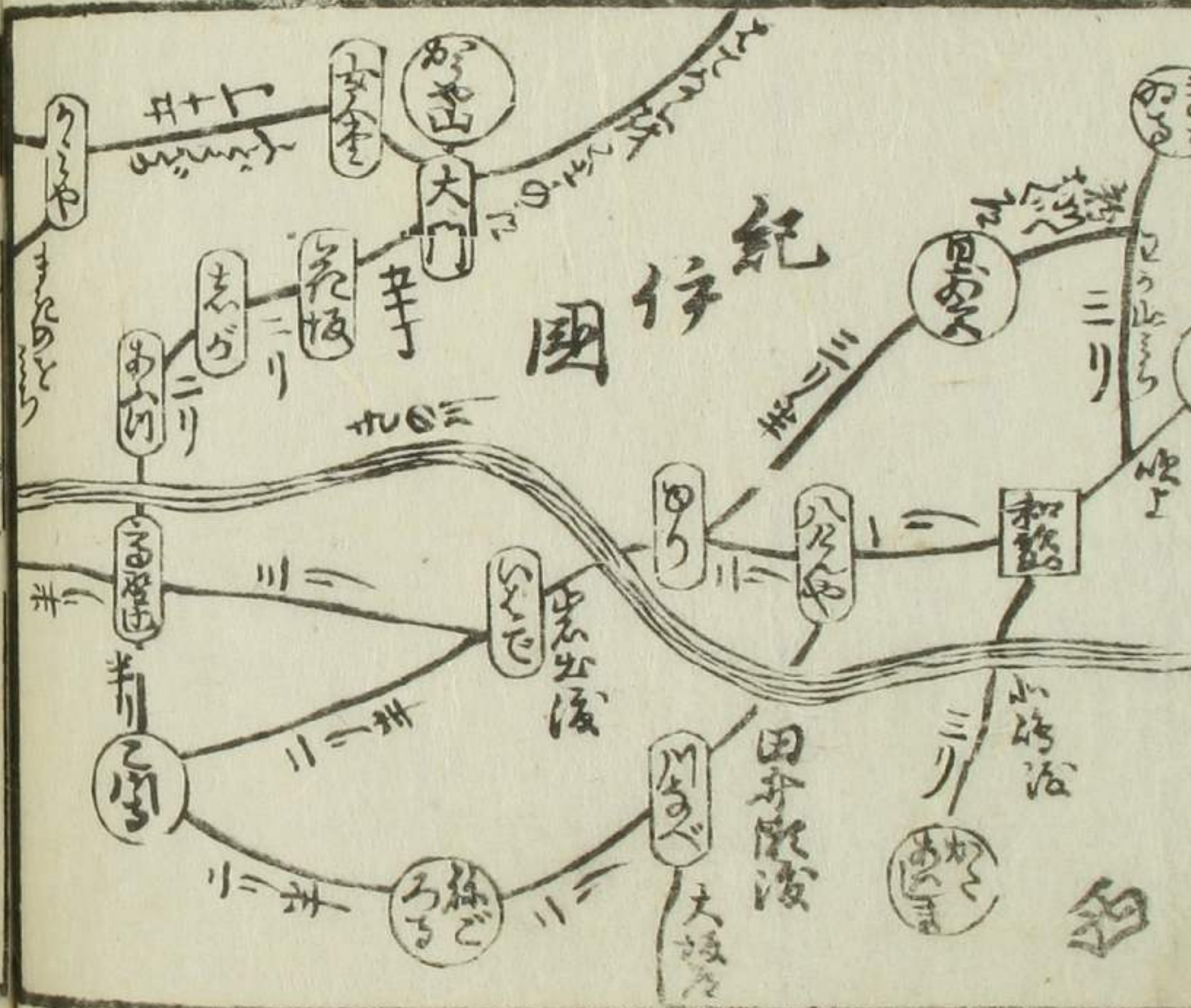
舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院

舟御山院 舟御山院



紀三井のふみ浦より粉川左日根末より粉川より  
枝尾の日向の地より枝尾左粉川のふみ坂より  
枝尾の日向の地より日向の地より



ふみ井ちをふみ坂より  
日向の地よりまわり  
方角のふみ坂よりまわりの  
ふみ坂よりまわりの



丹坂村 古田村 上田井次郎大いも

△長田親善寺 本堂をめぐりて長田親善

檀内が粉川にけぬけ十八町

○根来寺より粉川

八町屋より一町 川船止 休

ハ形やも松並木ふつと並ぶりバ

岩出居に十町町にたのふ川原へ

をり田井の次後を越て川を村々

つる けりたをりて紀原をるん

川船止より一町 西坂本 宿舎

川より西坂本の里村里より西坂

本に根来寺のあり

△根来山 秘藏傳法院 新築

本堂不動明王 並換りらあり

開山興教大師中殿 号是僧上人

け外諸堂多し 本堂内換多し

東坂本 宿舎

粉川寺 宿舎

三妻 紀伊國彌陀路山

天名京 粉川寺

本堂有向何十五町 宿舎

文政八年と 千五十六年と

本堂より千眼親善寺 宿舎

他人を男乃能 宿舎

大つの内山地場より 宿舎

本堂有向何十五町 宿舎

ちを在信ひらりてをり





樹尾へまぐる六り

高野より十三り 并あり

○またれのと山、すく通

粉川こながわあり **高野** 高野

粉川の町中をたけり合をたれり

高野たけのあり **高野**

高野の街尾をすふりて入

川を流れてあづくはらひきせ

高野たけのあり **高野**

高野のつぎふ穴虫村 高野

出原川を越てすふりて平

坂尾を越て高野尾道は川を傳てたけ

け川をいへる高野又川をすふり

は川八瀬とて又けを越

高野尾とて高野の合をたれり

種小用とて高野あり

村かき村尾は村 高野

宮の裏みやのうらあり **高野**

是より山路高野尾をすふり

高野あり **高野**

大久保おおくぼあり **高野**

大久保は尾と十八町あり

一町あり **高野**

高野の裏を高野尾とす十町のあり

高野あり **高野**

高野あり **高野**

高野あり **高野**

高野あり **高野**

高野あり **高野**

高野あり **高野**







△高野山金剛峯寺 中本山

開基弘法大師 弘仁七年建立

△大門 南本山十二号あり

あまのり 女人堂 十八町中の二丁

奥院 西園寺 五十町

中門より入る 檀上あり

△高野丹生 西大光明寺 南本山

△金堂 合色茶所あり

△六角堂 掛紙金泥一切極

△西塔 金剛奥大日如来

△新内室 普賢曼陀羅

△孔雀塔 孔雀明王

△準胎堂 志んごの観音

△赤心堂 弘法大師の像

△滑頂堂 高野曼荼羅

△大塔 普賢曼荼羅

△珍祇堂 大日如来

△彩雲堂 如来明王

△會堂 丈六阿彌陀如来

△三昧堂 大日如来

△東塔 普賢佛

△奥山寺 行人方の改定

△東照文の御神廟あり

△善哉堂 字信方の改定

△志んごん堂あり

△是の奥あり

西園集

里



△ 雲梯

△ 南院

△ 知合院

△ 遍照光陰

△ 壹々

△ 法津院

ききりふらふら

復切ふ知る

蛇江ふ知る

柿ふ知る

刈萱乃公の四條

北日大陣乃出教

△ 是よりあつて

△ 大橋と十だく内殿と大河のる吉

△ 院阿家ほるの左太ふ

△ 大の石塔 弘法大陣南ふと毎さかみ

△ 勇我兄弟の塔 そとまき内せし大の石塔

△ 多田満仲の塔 たのまんちゆう

△ 法隆上人自法の後け介

△ 天子 將軍法大各名古今名士の石塔

△ 玉川 たまがわ △ 蛇柳 へびやなぎ

△ 十ざと井 とじ △ 中の橋 なかのばし △ 棺掛橋 くわんかけばし

△ 本念寺 ほんねんじ △ 灌下寺 くわんげじ

△ 求聞坊 もともんぼく △ 心住 こころぢゆう

△ 沙麻橋 さまはし 橋板三十七枚うらま金部殿

△ 地蔵寺 ぢじゆうじ △ 妙明 めうめう

△ 骨堂 こつだう 骨の塔一高よもけ西よ細ま

△ 奥院 おくいん △ 新所 しんじよ

△ 兼和二年三月廿一日弘法大陣入定の

△ 下向乃八町の中庭とと戻りてた

△ 子院 こいん △ 院 いん

△ 大徳院 だいてくいん △ 東照堂 とうしやうだう

△ 肉の石知 にくのいしち △ 二重の塔 にじゆうのた

△ 西目録

△ 西目録



△女人き お小細像の地蔵さあり  
 南山東条信の男八宿宿小泊り女を  
 此宿小泊り地蔵合宿夜具等い宿  
 坊より坊ある坊の下男業因し  
 女人通より所く遠縁させと又  
 宿宿多た人いけ世と業因の人  
 と宿つくととととと  
 乞より紙屋の宿まで二十丁不  
 坂と云下り坂乃地蔵一人家なり

外の石動 江戸宿

紙屋占二りま 慈光院 宿休

紙屋の町出口占たけいへ東大坂  
 十丁たり地蔵したのとる  
 権出村あり 九度村 大田幸村  
 宿休の宿

お度山地花音 村の宿あり  
 慈光院占二り 大畑 宿休

弘法大野沙母公の宿ありあり  
 町と十丁く紀の川舟屋し  
 次大畑村乞より松尾と山崎  
 乃前より他とるをいふ宿子  
 く泊るべく次と西川村 宿一卦あり

大畑占二り 大畑乃畑 宿休

大畑作紀伊内國界とまを人  
 かく二十丁すたくと一ツ家の宿  
 ありふりて

松尾山 宿休  
 松尾の宿あり松尾の宿あり



に内和泉の國界

和泉國松尾山

四番 天石宗 絶續寺



本寺をたてしむる由  
文政八年と  
子書八十一年と

本寺の縁起を尋ねば文政八年に  
五千石の親善弘法大師作以上の所  
を所子小安と

岡山山崎上人 中興の全修  
又弘法大師南無入りてめて出  
お別れしつゝ西へ遠く大洲に赴き  
高山寺中へ宿をとり

○高井寺、十と名を七リ  
大坂まつり十三リ

○高井寺、十と名を七リ  
またのとる二リを **天燈** ちのちたそ

松尾大門より十と名を七リの大坂  
たつた天燈屋一り解りて

出畑村 和泉の國界  
天燈 井田村

天燈山合刻るまゝ宗 仙屋  
後殊務のたつた大門の敷の後白

川院 岩屋太の山の上の法書あ大  
明井の社境内通ぬけ御座り

次々 廣野村 上原村  
野村 原村

向野 日一寺 **富田林**  
けきり寺のりもふ自他

西国紀長大全

四



西郡村 西裏村 野墓村

宮内林のり くらわら あり

是より二りの名野をたて度あり

大坂 河内國 葛井

葛尾より大坂より葛井まで

十回りほど一葛尾より葛井まで

○ 葛尾より大坂より葛井まで

葛尾より大坂より葛井まで

葛尾より大坂より葛井まで

葛尾より大坂より葛井まで

横山村中川より葛井まで

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

西国為長全

四四















墳あり

上のちまの八丁 **山田** 者三形

△聖徳太子の母回入宮伝 太子妃

三人の御厨一ツ小納むの事三尊一

廟と号ど△念仏寺△あみごき△

大所寺△太子十六歳に教を△二尊

坊△太子廿五歳の御教を△二尊

是より南の山つゞき高城令到山千

早親んさふ皆はききたり

山田より十はみ丁の御庭大なるす

はるまきり少住 **たぐま** あつち宿

山田より十はみ丁の御庭大なるす

たのち御免るは御免御免なすた

御免御免あり玉縁御とくごりて

はきあり 筆のし 是よりたへ

りるの深井の御庭御とくごりて

りる御庭の御庭の御庭

高麻が一りき **新屋** 宿もや

大和路の世一丁一里の御庭

室まうすけいせふんせきまで大

抵をく

△高麻寺 宗高寺 本寺 親を看

△高麻寺 宗高寺 本寺 親を看

△高麻寺 宗高寺 本寺 親を看

△高麻寺 宗高寺 本寺 親を看

△高麻寺 宗高寺 本寺 親を看

△高麻寺 宗高寺 本寺 親を看

△高麻寺 宗高寺 本寺 親を看











吉野山金峯山古寺中百餘

大門山の古寺南の山道の極あり

本寺の舊に権現三神あり

△宇陀院 後醍醐 権現上の三帝

けきと宇陀院と一山あり△吉水院

△神橋山 猪子の後社あり

△中院谷 猪子の後社あり

△本久念 忠臣の

△世尊寺 本寺釈迦佛の日本

△子吉明神社

△法光寺 △金精明神社 △源氏の極

△奥院寺 権現あり

けきより一山あり

りとして下り飯見のり

吉野より二十町 吉野

より山あり

△ひがし川 吉野

△市 吉野

△市 吉野

△市 吉野

△市 吉野

△市 吉野

△市 吉野

△市 吉野

△市 吉野

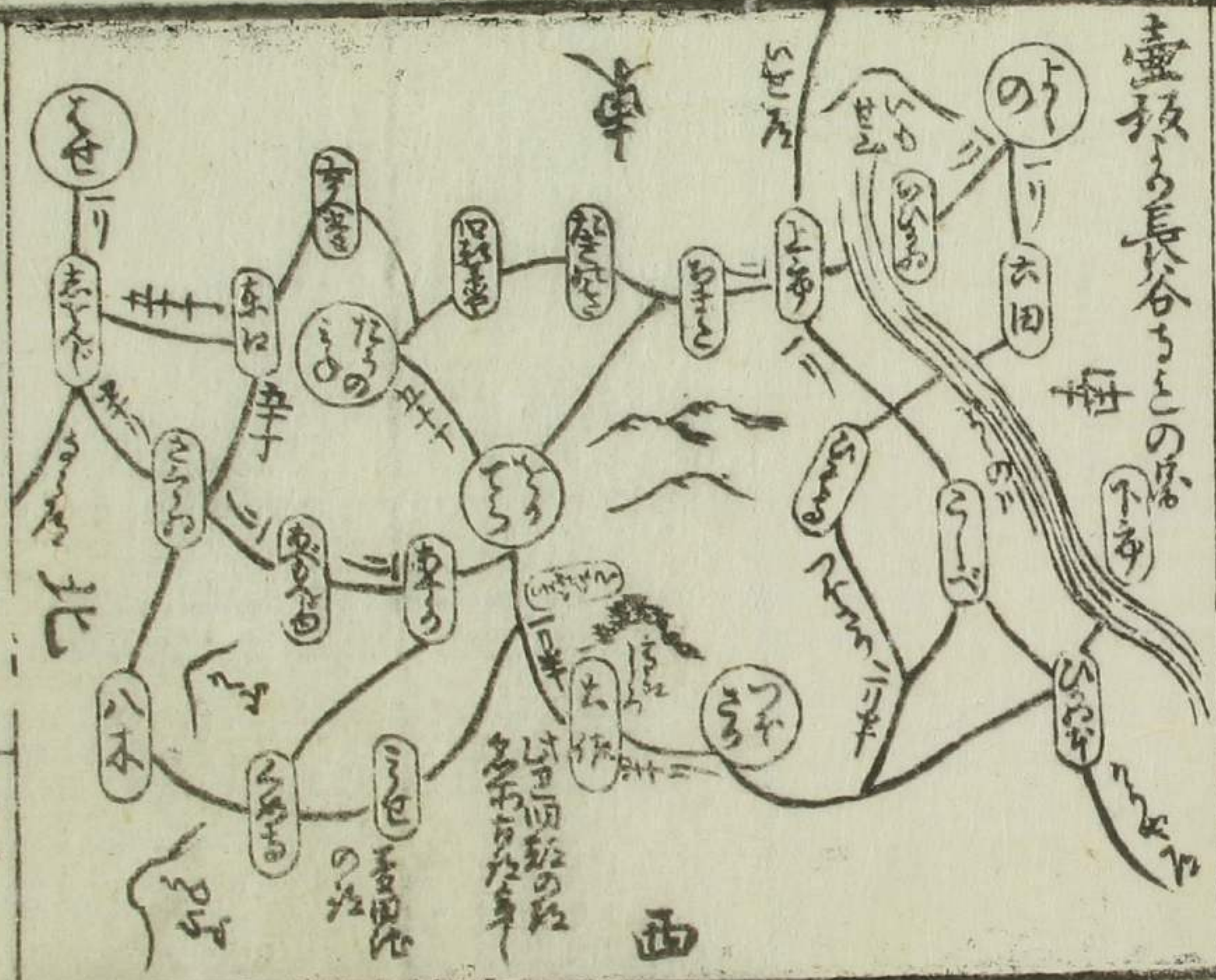
△市 吉野



又十社所行てはち茶屋敷の八丁より  
 多合寺一名洗山 此の所の事なる  
 苗山なる女人結男と此の所の女人  
 なるありぬふの山上より本社西面こ  
 むるひ社所行てはち茶屋敷の八丁より  
 是より遠殊するはけりありてせく  
 いふは園中にてえの想つありけり  
 △本社大職冠法皇公の御孫とあり  
 後山大権記と号す十三重の御孫  
 その介法きき多し  
 けりありてはち茶屋敷の八丁より  
 是より遠殊するはけりありてせく  
 いふは園中にてえの想つありけり  
 △本社大職冠法皇公の御孫とあり  
 後山大権記と号す十三重の御孫  
 その介法きき多し

多合寺なるは  
 大正三丁、五丁  
 大正三丁、五丁

壺坂より長谷寺との事  
 大正三丁、五丁の事なるは



田圃紀異大全

五十二



七番

大和国墨江寺  
たもと泉 龍蓋寺



本寺あり五月に由  
文政八年と  
千百六十年

本寺ありと檢<sup>けん</sup>音替<sup>おんかへ</sup>の作小仏  
なりしと中興弘法大師三國の玉と以て  
丈へ<sup>あき</sup>神臂の像をほりり被小佛と物  
内小細とま入今の本寺ありとて寫卷  
ハ義測信山 天智天皇の御在御  
寺代計十石

○墨寺より細瀬<sup>ほそせ</sup>下<sup>した</sup>り三<sup>さん</sup>り

まゝ武<sup>ぶ</sup>山<sup>さん</sup>より由<sup>より</sup>りり<sup>りり</sup>の<sup>の</sup>屋<sup>や</sup>に<sup>に</sup>合<sup>あ</sup>

墨寺より十<sup>じゅう</sup>ぐら

の<sup>の</sup>屋<sup>や</sup> 始<sup>はじめ</sup>り

園<sup>の</sup>より<sup>より</sup>橋<sup>はし</sup>より<sup>より</sup>由<sup>より</sup>りり<sup>りり</sup>の<sup>の</sup>十<sup>じゅう</sup>町<sup>ちやう</sup>

づり<sup>づり</sup>由<sup>より</sup>り<sup>りり</sup>久<sup>く</sup>兼<sup>かね</sup>寺<sup>じ</sup>あり<sup>あり</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>由<sup>より</sup>り

と 飛<sup>と</sup>鳥<sup>とり</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>村<sup>むら</sup>又<sup>また</sup> 山<sup>さん</sup>田<sup>でん</sup>村<sup>むら</sup> 宿<sup>しゆく</sup>屋<sup>や</sup>

阿<sup>あ</sup>倍<sup>べい</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>り

櫻井

名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>り

阿<sup>あ</sup>倍<sup>べい</sup>山<sup>さん</sup>満<sup>まん</sup>秋<sup>しゅう</sup>寺<sup>じ</sup> 文<sup>ぶん</sup>珠<sup>しゅう</sup>寺<sup>じ</sup> 日本<sup>にっぽん</sup>三<sup>さん</sup>文<sup>ぶん</sup>珠<sup>しゅう</sup>

櫻井<sup>おうら</sup>の<sup>の</sup>寺<sup>じ</sup> 丁<sup>ちやう</sup>

慈<sup>じ</sup>尊<sup>そん</sup>寺<sup>じ</sup>

名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>り

た<sup>た</sup>らの<sup>の</sup>寺<sup>じ</sup> 表<sup>ひょう</sup>つ<sup>つ</sup>本<sup>ほん</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>橋<sup>はし</sup>丁<sup>ちやう</sup>

慈<sup>じ</sup>尊<sup>そん</sup>寺<sup>じ</sup> 名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>り

七<sup>しち</sup>世<sup>せい</sup>

名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>り

と<sup>と</sup>せ<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>寺<sup>じ</sup> 名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>り

八番

大和国<sup>たいわ</sup>墨<sup>すみ</sup>江<sup>え</sup>山<sup>さん</sup>

長<sup>ちやう</sup>谷<sup>こく</sup>寺<sup>じ</sup>



本<sup>ほん</sup>寺<sup>じ</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>由<sup>より</sup>り  
文<sup>ぶん</sup>政<sup>せい</sup>八<sup>はち</sup>年<sup>ねん</sup>と  
千<sup>せん</sup>百<sup>ひゃく</sup>六<sup>ろく</sup>年<sup>ねん</sup>と



本寺十一面観音長七丈六尺八寸  
日ノ作山後乃上人智武天皇の御  
殿新寺也言云嵩山縁起の昔西  
北の寺境内ニ母之梅△古の好色ニ  
本枝△玉高四丈△後知定家師の  
塔を介考後伽藍堂あり

○細瀬より南宮寺まで七里

細瀬は後寺也り十里 湯治あり

初瀬分り みる 有るや

美妻も村退分た梅井也三福乃

け色つゝ人磯城徳文の徳之遊分

十四年の一軒茶屋ありけ西松市

の回徳よりけ色と三福ヶ崎信仲の海

ともゆもちた名も七八町に今

村せくこりバ三輪の町け村の中

たけりあり三福の寺社をみる

△大神社を新大物を命又たを

命ととす△三ツの寺△中枝

けが法者素社後しほの山と三福山

又三徳山ととを又信仲の吉徳ハ

十十ヶ村松原茶あり 社名を平

小の寺 松原茶あり 社名を平

三輪を二の寺名社ありあまを町

より三輪をけふけり三輪町あり

○三輪の穴神の林へあり柳をみる

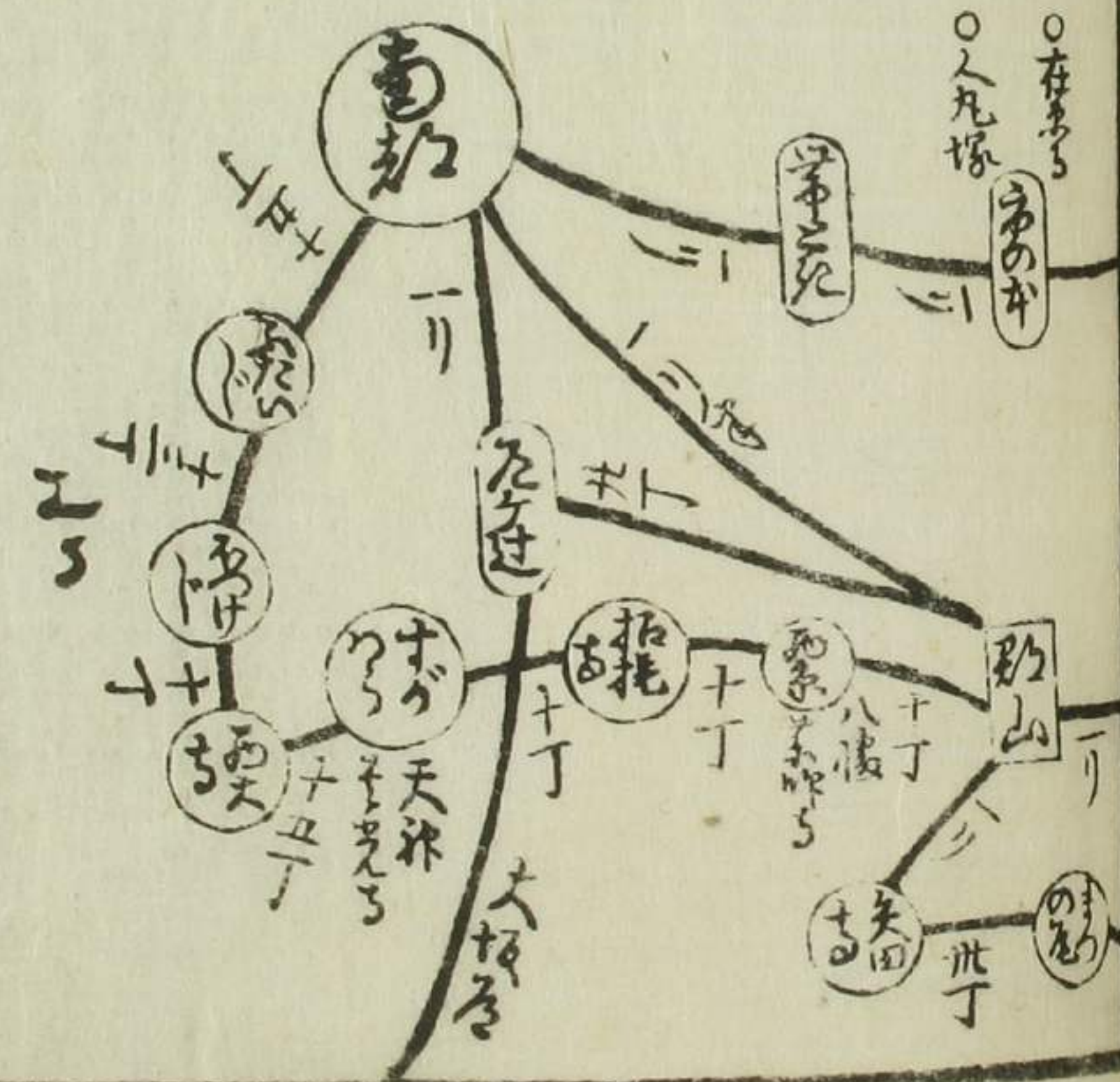
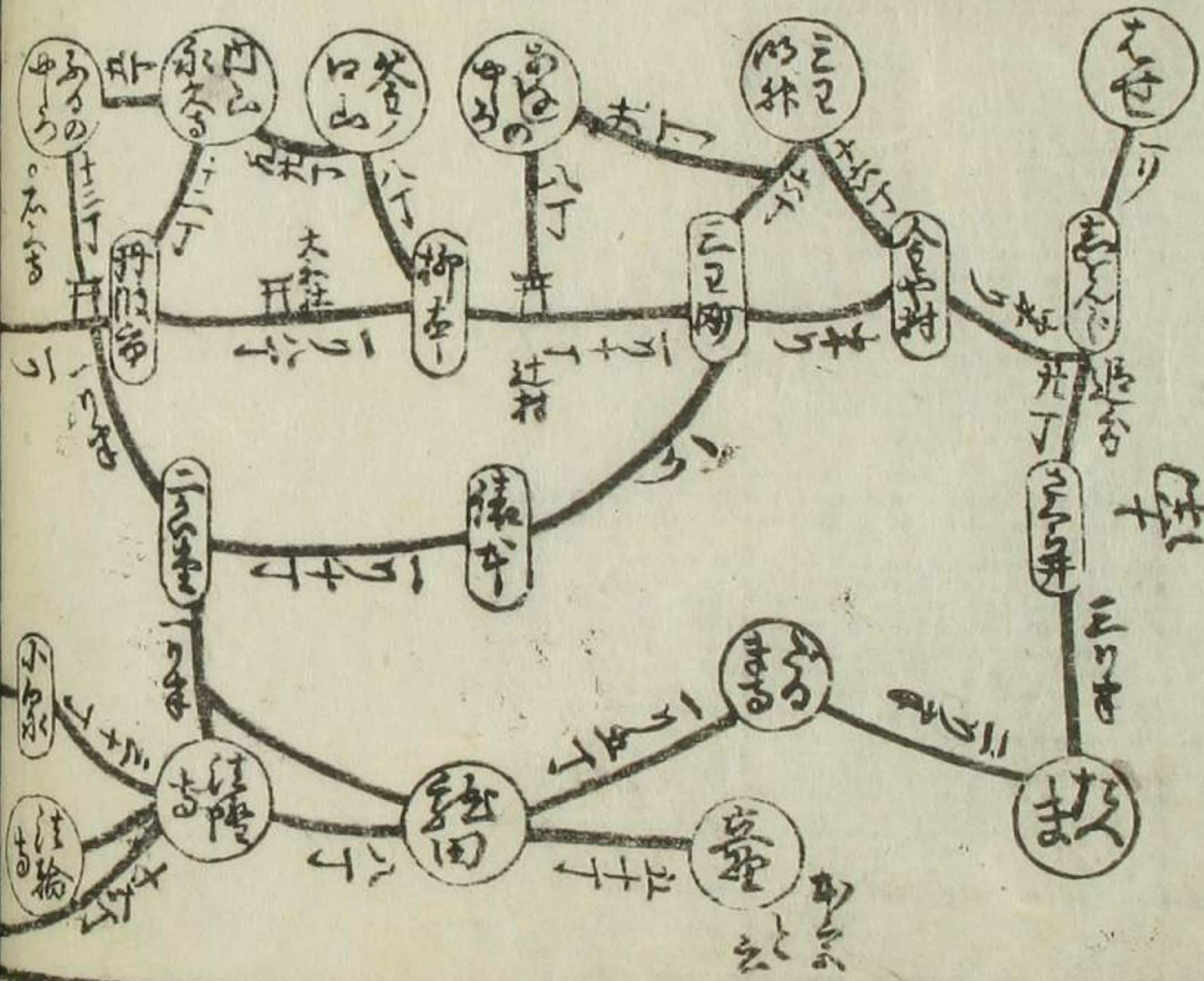
三輪の寺名原の徳も太の氣

細乃の寺名村松原茶あり

三輪の徳も三輪の町へあり



幼少の頃より乃年終田は終る也  
 ありふるをわらひぬる也



ひつりふんどう  
 非内波生の地丈半丁定所明林は山  
 大穴山又その向を云々名取の地を云々  
 下まの山は乃建村八丁持柳半八丁是を  
 云々の名不徒云々云々云々云々云々云々

西田田記

三三



三輪より十丁

柳市

宿業所

けりるもどろ塚名中村の塚あり  
柳市より八丁

丹波市

宿業所

けりる織田大和を教訓所あり柳市北に  
の白村を谷にともあり乃岐弘新家村に  
大和の社あり二十二社の内

丹波市より

布の市

宿業所

けりる内山入る入りありまのそ家  
法をま結集してけりる大和の

又丹波市の山ありまのそ家  
るまの布留の社ありけりる

けりる同の社ありけりるの園引合あり  
けりるの市より

学舎

宿業所

常盤より

赤の市

宿業所

常盤の社ありけりるの園引合あり  
けりるの市より

○赤の市の宿業所あり  
太田ありあり

○純田は隆寺あり

三輪より一丁

二かき

宿業所

丹波市より一丁

注し

宿業所

○注し

△合堂釈迦三尊の作  
を和せの書樂の書する云△講堂



茶所 けり内をまき法華経勝賢經講  
せさ勢のまに樹のふ合の長嶋ろ

△二重堂 持中此修傳に教うて △上堂  
意以此れ作未建講より

叙迎二堂 △西堂を茶所如茶の作  
に天に

寺門に法教あるふの鏡裡にれれと細じ

△三優院 同席のありあり △古子堂  
七持れ室おと柄じ

△東の介 中門の介 古子縁定小  
あり

入くたより注を極とぬ海のふあり  
上堂三院より坂旭文の四地

△全利寺 南女仏の令 △二山院 お軍一衆  
利と安をす

△中宮寺 お付いたる  
あり

けり法堂まきくそく記ごとく

○けりる三井は輪古松尾古へるあり  
けりる八町

立地

龍田小在と社と新文と松と五世

小在すと中宮と松と社と龍田の

里人の五世の別の社と龍田明林の

あらずとく五世あそふ中宮と五世

とく入のまきとせさるやあざん

△龍田川 龍田町あり △龍田山 五世の上  
小川をこくと

△休むゆゑ △三堂堂 △繁淵堂

△お系川 △中石以上五世の巻と

又龍田川ら五世のあそふを龍田の川

いたあまきと定とじ標記あり

○是よりえの法華も入なりまき龍田

と世をまきしては後とて龍田あり

とより法華も入松尾も夫用も入



シタ人ノ小泉ハあり

○彌陀洛山松尾寺 十五丁

天武帝ハ皇子今人報之の山松尾寺

十二面観音の他 大黒天の作

○矢田山金剛寺 松尾五十町

本尊ハ弥勒菩薩 満兼上人の作

是より郡山ハあり

小泉 五十町 宿業所 町のりま

行指石ノ金剛殿ハ陣屋あり

小泉 五十町 郡山 宿業所

松平甲斐守殿ハ城下ハ十丁

郡山 五十町 宿業所

大武天皇ハ御宇ニテ持統天皇十

一年 藤原仲麻呂ハ文武天皇御宇ニ

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫

テ 佛堂ニ建テ 釈迦尊ノ御影ヲ彫



十丁

菅原天祥

招提寺

菅原天祥 招提寺 菅原天祥 招提寺

ありては山とて 菅原天祥の後に

△菅原天祥 招提寺 菅原天祥 招提寺

傷心 △伏見 秋分 外山

△伏見 秋分 外山

西大寺

十丁

△伏見 秋分 外山

△伏見 秋分 外山

△伏見 秋分 外山

△伏見 秋分 外山

法華寺

西大寺より十丁

△伏見 秋分 外山

△伏見 秋分 外山

△伏見 秋分 外山

不遠寺

法花寺より十三丁

△伏見 秋分 外山

△伏見 秋分 外山

是より京長一十丁

九妻

南園堂



堂八角宝殿 延永の 文政八年と 千十三年と

△伏見 秋分 外山

△伏見 秋分 外山

○京長一十丁



真福寺（一）大藏冠法道公山城

宇治郡山階小建立山階と号す

天明天皇御細二年今の代に後

一高京法海公造と号す

と号す号す以真福寺と号すと云日

の御名と定ちるなり

菅菟（一）同様のら信をけし

△八重橋（一）名をかりが

△未女洞 △長柳柳（一）十二種

以親者（一）池のまこと

之無（一）今持一奉き一字あり

春日社（一）御本社大宮と申す

武甕槌命 △中二経津彦命

△中三天河彦根命 △中四

△春日山（一）三美山の

春日山（一）三美山の

富者山（一）三美山の

东大寺（一）聖武天皇の御

年中奉割 △大佛殿（一）東西六十

△法蓮（一）去天三丈六寸

二月廿十一面親者 △美狭井

△美狭八幡宮 △日向山

△美狭門（一）西北の

中井坂 △美狭門（一）の

佐保川（一）天の川

○勸香堂（一）宇治三

○奈良（一）八幡宮

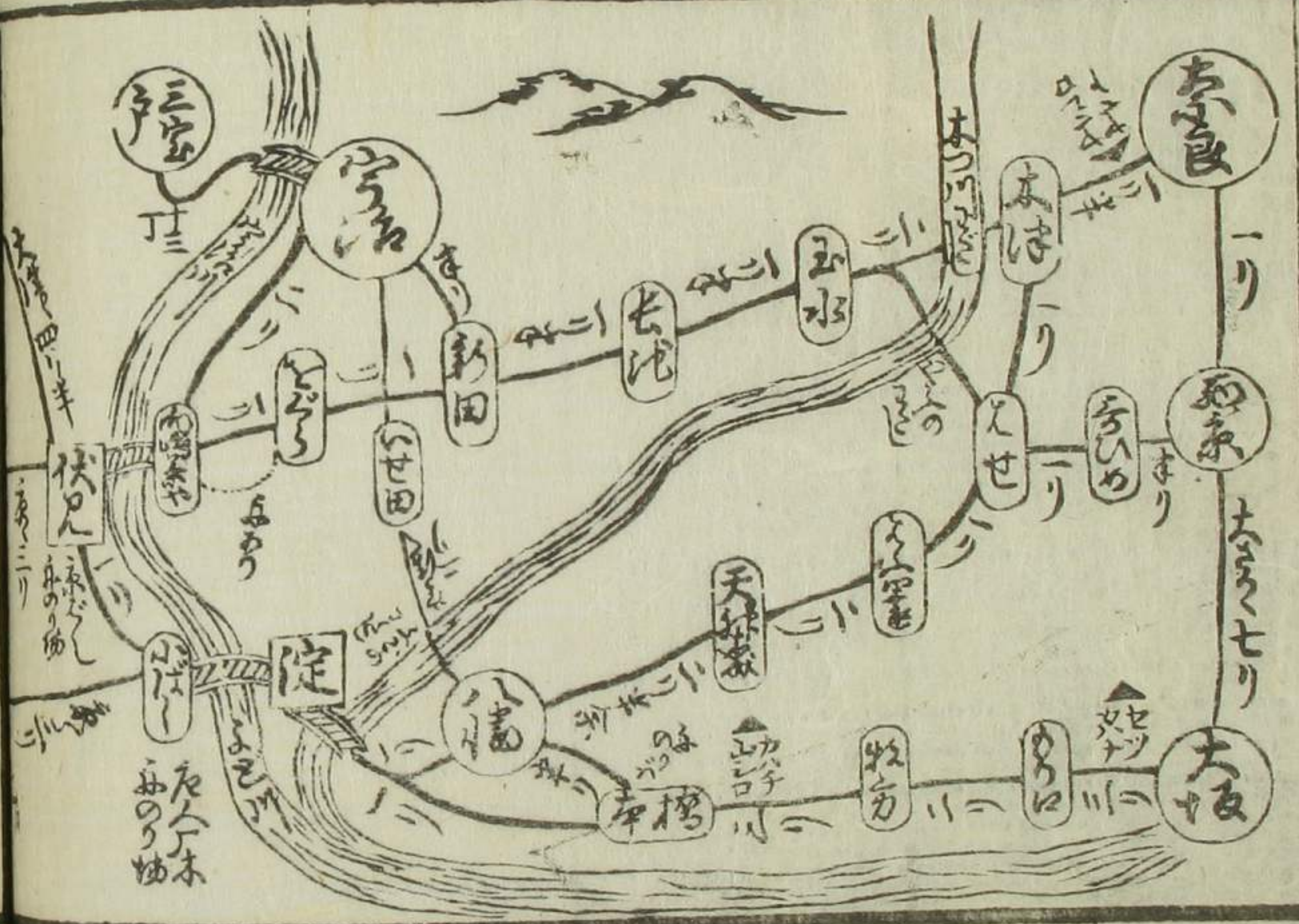
○伏見淀橋（一）大坂

○伏見淀橋（一）大坂

西国御書

六二





西国経路

○赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。

赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。

赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。

赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。

赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。赤良の川は、赤良の川に合流する。

西国経路

赤良の川



山吹の花 畦 名 十六村 榎  
長池 一 米 新田 田

久世村 榎 新田 田  
新田 田 米 田

宇治 橋 田 米 田  
なりん 田 米 田

入 田 米 田  
そ 田 米 田

そ 田 米 田  
た 田 米 田

△ 平 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

△ 池 田 米 田  
△ 池 田 米 田

十 田 米 田

田 米 田

田 米 田









堂南の九乃山  
八百九十九年

幸き準提記音二面八續長六人  
中真聖宝理源大脚化  
奉院△如之物親音△大明日堂  
ける像へ平親主物門調伏のそ死不  
勤明之の利級より血流まきそ入  
△理源大脚音

上だいで方七十町 炭倉吉

礎礫より北二町あり  
ごご女人考入れらる人といふ  
出合るゑ文も文のち川と越て  
板下七本をまき村

○炭山越女人乃山  
炭山まて山越み十丁のり人あはし  
小口十丁又丁  
二尾村  
二尾方十町  
山越境心外畑村  
子あはた岩るる

### 十二番

近江國炭田山  
吉宗一山法寺



文政八年  
九百九十九年

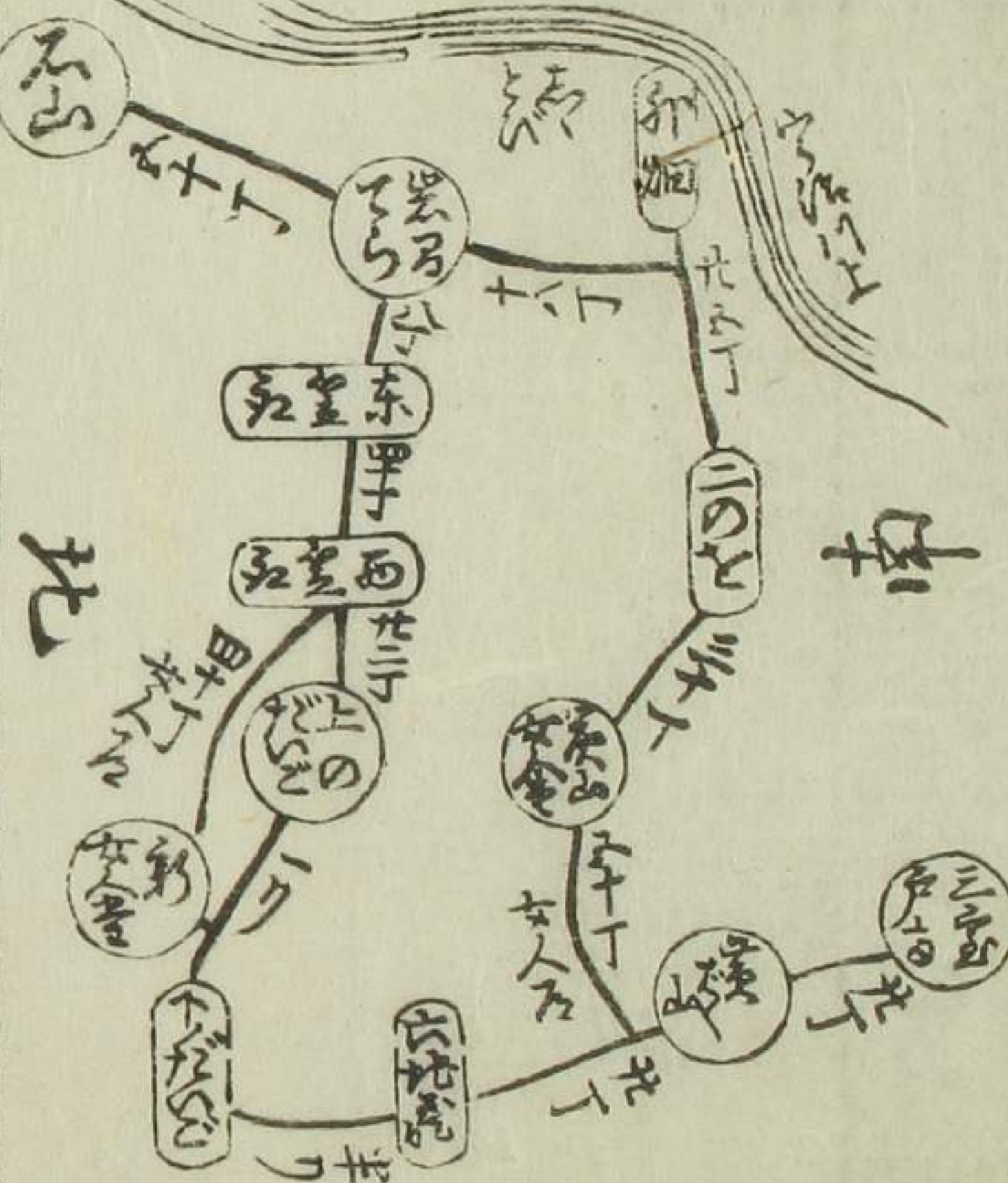
奉きふの親音長  
三分用山

西国

二二



此の山は... 三宅山と云ふ



三宅山と云ふ

三宅山

三宅山と云ふ... 三宅山と云ふ

十三番

三宅山



三宅山

幸言... 三宅山と云ふ... 三宅山と云ふ

三宅山と云ふ... 三宅山と云ふ... 三宅山と云ふ

三宅山と云ふ

三宅山

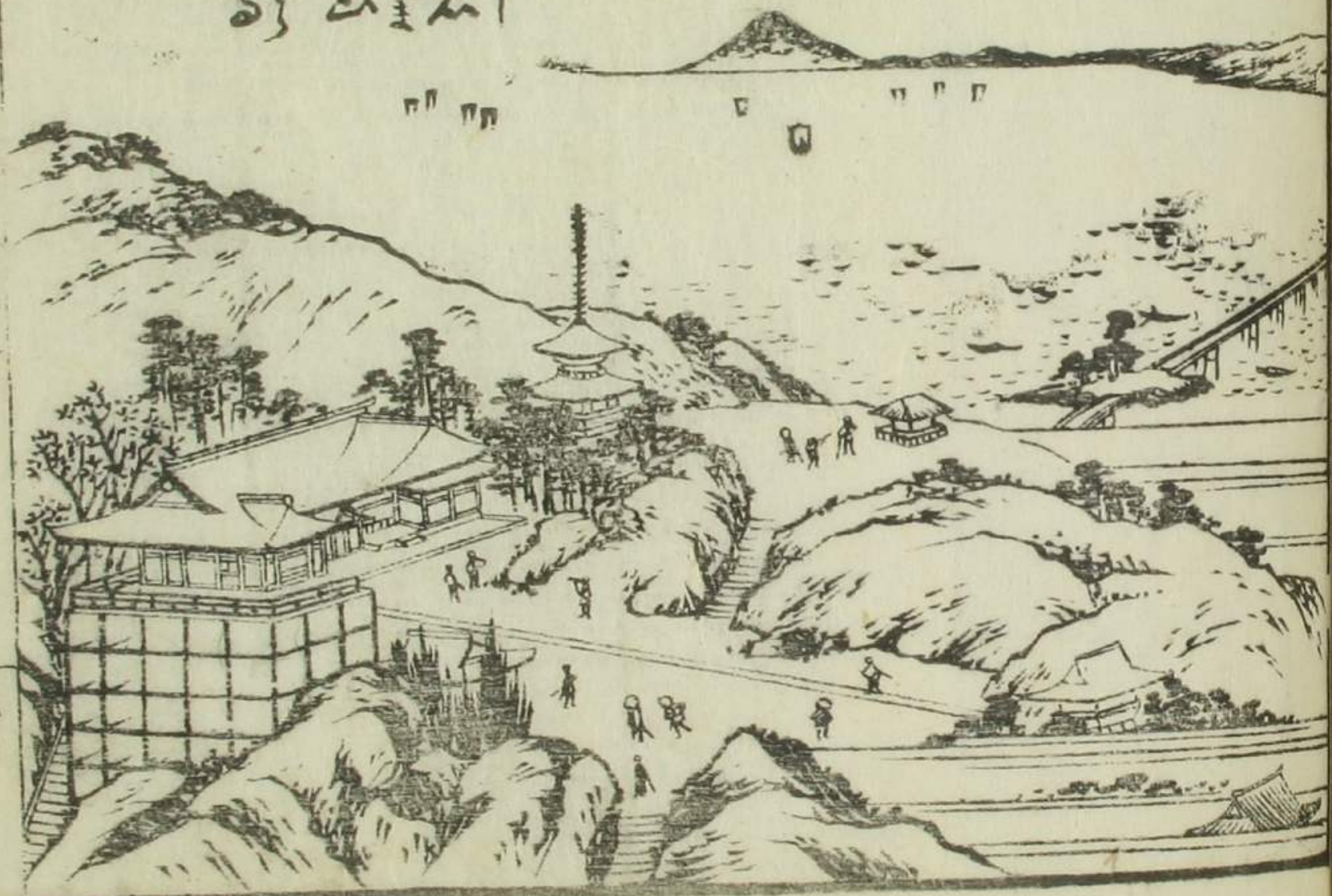
三宅山

三宅山

三宅山



石山



石山より大は石橋まで船あり橋西の  
 城のありをり風景よく陸より入城  
 又いざ他へけ海上は数處をとり  
 小黒川舟のり難儀なるもあり  
 ようやく三ヶ所とんとをまわし石山  
 十軒丁なる居川村 船多の橋あり大橋  
 六軒小橋ありこまこまに架橋あり  
 左の田中今井甲府美平が隊あり  
 猪野所長一騎かまふ伝言伝  
 下より次馬場村我陣も二本を我  
 陣の隊継作をせは石の隊あり次  
 石橋よりつとけ石より大橋三上  
 山麓山ははらばら嶽は数處あり  
 なる見し後川舟のりはより大津の町

西国

石山











東照権現御宮 是より山にのり西

へり出 彼止殿を尋

山之七社権現 八丁より大雲の傍より

坂路八丁よりとて、ゆりて是より

中をまじ世丁女中の是方別まじく

坂平志知る出山中越ふる東出東

の宿にて待合すなり 山崎坂平なるは

比叡山の上ふ東をまじ山崎屋より

店出り店を平あませ定まらば坂

かうを合おけららの用をててぬべ

句論骨より精じて乃んとも小法

浄くくくんが中ふ清めず

根本中を尋 横川、五十町

中を尋るる末御代傳教大師の他

寺門の光明の極度天竺の山に

者山並削のさるより千余年の今ふ

いらくと火と絶えずとてはけ西を東後

と稱し名後横川と合せ三境とらふ

け西を南谷を尋ぬる八丁を平四のふ

不動寺中を尋る不動の寺の作

辨財天行 大衆院 釈尊を人の四柱

是より東乃山中村八丁

根本中を尋の次、戒壇をあり是を

西境の侍者、ゆるに辨財山を武院

房弁堂の位にゆるり 以て西塔大講

堂を尋る釈迦の身 山崎より

は願を尋 以て寺必尋 山崎より

寺賢文跡たたの寺に安んずと

西国編身卷

三六



沼小傳教大所此は所<sup>こころ</sup>をさう  
 約て成<sup>なり</sup>ありたは横川石<sup>せうけん</sup> 層<sup>そう</sup>論<sup>ろん</sup>  
 横<sup>よこ</sup>たのえん<sup>えん</sup>と谷<sup>や</sup>を<sup>を</sup>大<sup>だい</sup>所<sup>しよ</sup>年<sup>ねん</sup>二<sup>に</sup>集<sup>じふ</sup>  
 まて<sup>ま</sup>信<sup>しん</sup>せ<sup>せ</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>を<sup>を</sup>有<sup>ゆう</sup>信<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>大<sup>だい</sup>所<sup>しよ</sup>  
 院<sup>いん</sup>の<sup>の</sup>内<sup>ない</sup>教<sup>きやう</sup>の<sup>の</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>年<sup>ねん</sup>と<sup>と</sup>女<sup>にょ</sup>也<sup>や</sup>

又は<sup>また</sup>西<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>切<sup>きり</sup>所<sup>しよ</sup>あり  
 三<sup>さん</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ぢ</sup>村<sup>むら</sup>あり<sup>あり</sup> 廿<sup>にじふ</sup>丁<sup>てい</sup>忠<sup>ちゆう</sup>念<sup>ねん</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
 △忠<sup>ちゆう</sup>念<sup>ねん</sup>の<sup>の</sup>大<sup>だい</sup>院<sup>いん</sup>本<sup>ほん</sup>寺<sup>じ</sup>の<sup>の</sup>十<sup>じふ</sup>二<sup>に</sup>面<sup>めん</sup>敷<sup>しき</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
 是<sup>こゝ</sup>より<sup>より</sup>移<sup>うつ</sup>る<sup>る</sup>寺<sup>じ</sup>、六<sup>む</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>

又<sup>また</sup>横<sup>よこ</sup>谷<sup>や</sup>の<sup>の</sup>横<sup>よこ</sup>川<sup>がわ</sup>、約<sup>やく</sup>石<sup>せき</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>八<sup>はち</sup>咫<sup>ぢ</sup>  
 の<sup>の</sup>地<sup>ぢ</sup>や<sup>や</sup>も<sup>も</sup>る<sup>る</sup>あり<sup>あり</sup>下<sup>した</sup>の<sup>の</sup>け<sup>け</sup>西<sup>せい</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 け<sup>け</sup>お<sup>お</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>えん<sup>えん</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>不<sup>ふ</sup>二<sup>に</sup>の<sup>の</sup>号<sup>ごう</sup>く  
 △横<sup>よこ</sup>川<sup>がわ</sup>中<sup>ちゆう</sup>寺<sup>じ</sup>本<sup>ほん</sup>寺<sup>じ</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>三<sup>さん</sup>丁<sup>てい</sup>  
 へん<sup>へん</sup>と<sup>と</sup>大<sup>だい</sup>所<sup>しよ</sup>の<sup>の</sup>内<sup>ない</sup>教<sup>きやう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>あり<sup>あり</sup>け<sup>け</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>

月<sup>つき</sup>より<sup>より</sup>飯<sup>いひ</sup>室<sup>むろ</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
 あり<sup>あり</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>月<sup>つき</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 て<sup>て</sup>併<sup>ひら</sup>せ<sup>せ</sup>と<sup>と</sup>何<sup>なに</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>定<sup>さだ</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>す  
 け<sup>け</sup>ま<sup>ま</sup>より<sup>より</sup>飯<sup>いひ</sup>室<sup>むろ</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 より<sup>より</sup>東<sup>とう</sup>坂<sup>さか</sup>本<sup>ほん</sup>寺<sup>じ</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>

是<sup>こゝ</sup>より<sup>より</sup>八<sup>はち</sup>咫<sup>ぢ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 ま<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>八<sup>はち</sup>咫<sup>ぢ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 横<sup>よこ</sup>川<sup>がわ</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 地<sup>ぢ</sup>出<sup>で</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>

け<sup>け</sup>下<sup>した</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 地<sup>ぢ</sup>出<sup>で</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 大<sup>だい</sup>東<sup>とう</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>  
 の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>は<sup>は</sup>七<sup>しち</sup>八<sup>はち</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>敷<sup>しき</sup>を<sup>を</sup>十<sup>じふ</sup>丁<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>集<sup>じふ</sup>る<sup>る</sup>

西国編身全

七十一











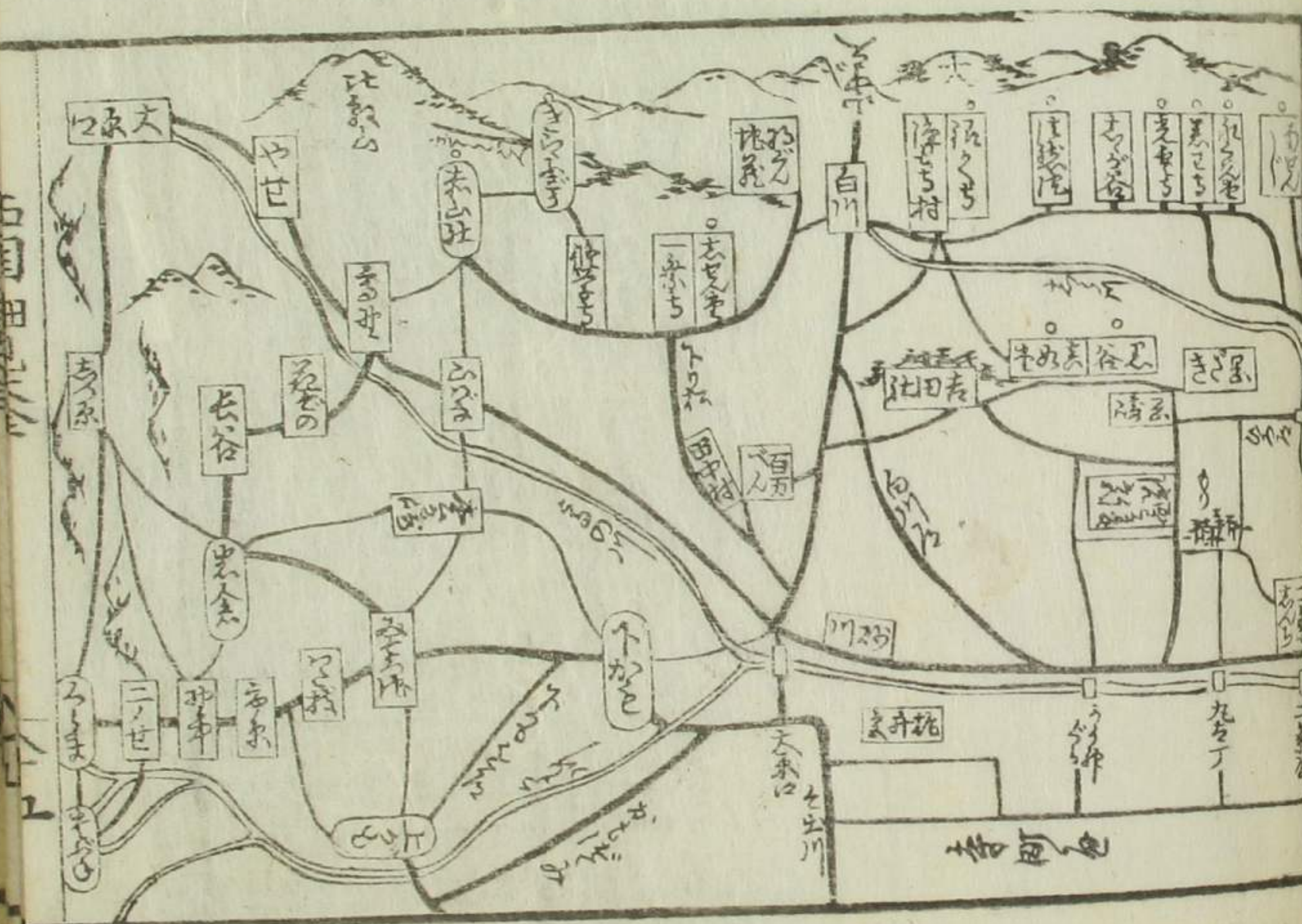
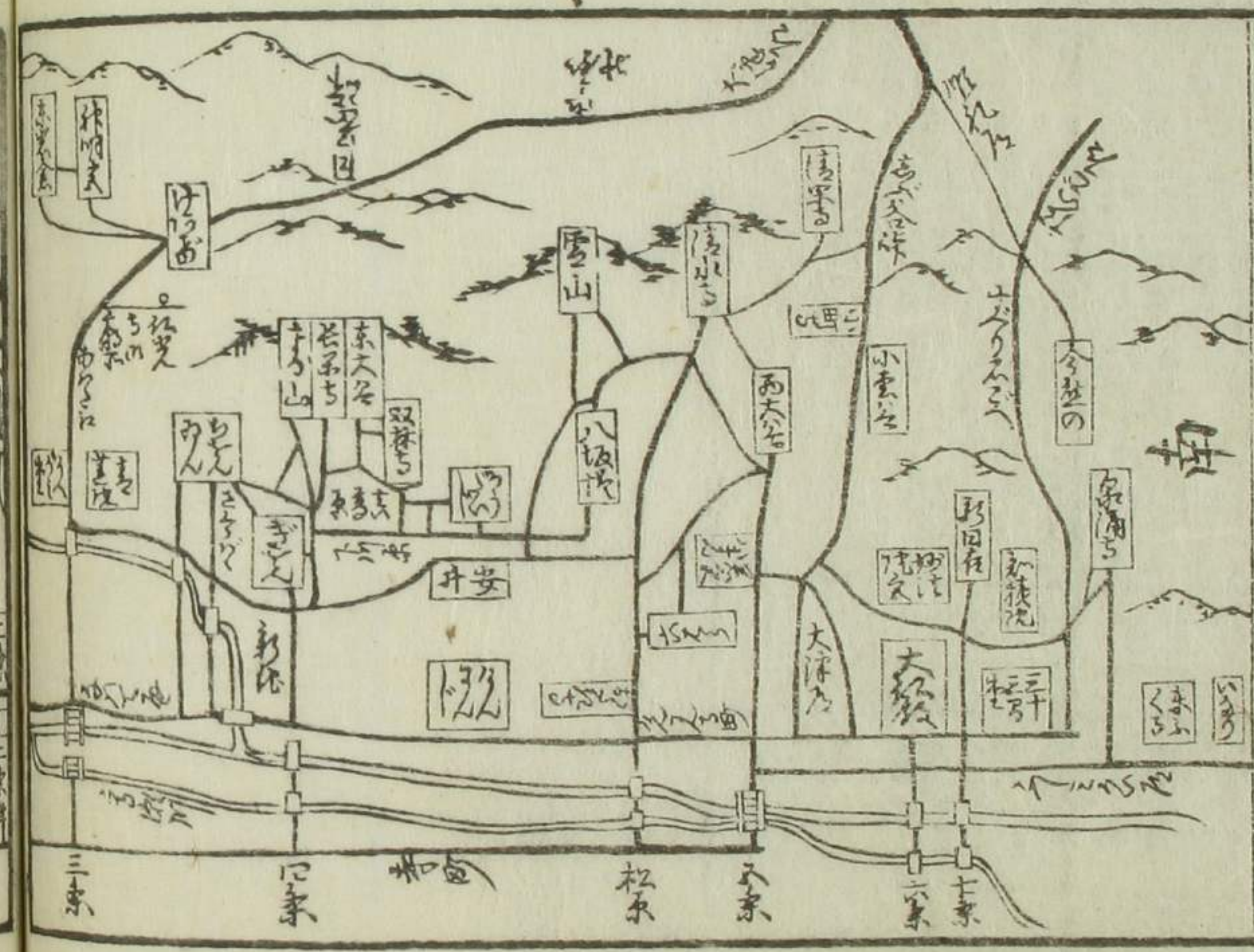




洛東寺社案内之圖 并諸山ノ名

西國分身大空

八口

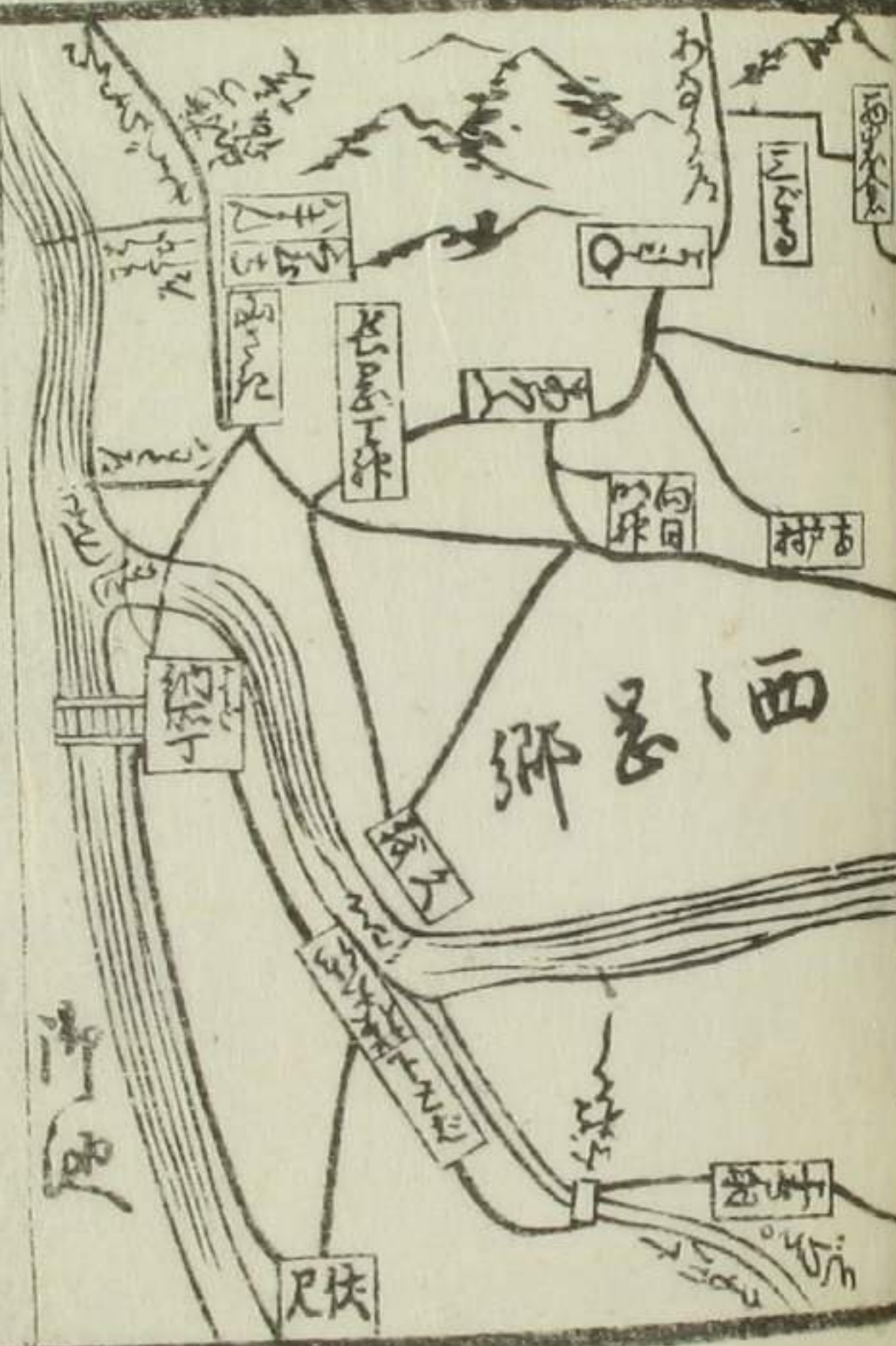
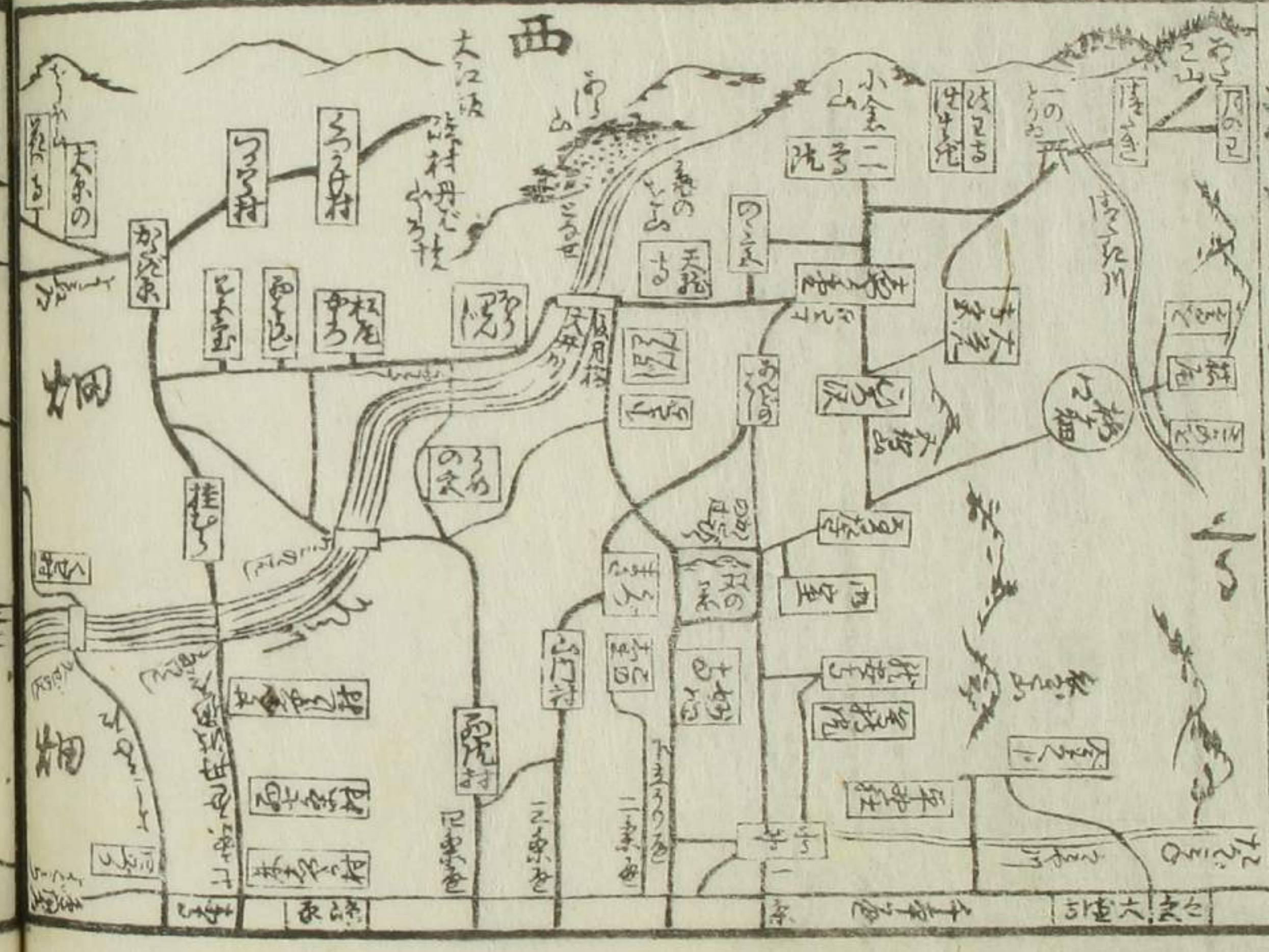


古田田

二ノ世



洛西案内之圖 并諸村之記



いまの世の せんりやうじ  
 新羅郡の 西郷古社内  
 泉涌寺 天子御侍の 雨宮御殿  
 法寺 遠近の 熱心 せうふり 橋  
 若社 東福寺 あり 依見 御及 出  
 惣つ ねある かの 方 後 下り 御道 あり  
 大佛 卅三万 きの 南つ へ 行 せ げ なる  
 今 蘇村 左の 方 新羅 郡 社 あり



△ 白河院の由建立社因大松掛橋  
 △ 三十三間堂 鐘堂 九人  
 △ 大仲殿 伝承不仕分の像を安置  
 △ 石つゝ岩窟 又又條橋 亦亦  
 △ 石あり是方へ流す清水と運ぶ  
 △ 清水より八坂まで流す紙置知慈院  
 △ 三条大橋とわがが川路より

十六番 京籠山 清水寺



本寺は十七日  
 文政八年  
 子十九年

本寺の子子親善長八尺半の延徳  
 延暦十七年弟親善長板土田村  
 齋坊令十八日 ちん百三十二

△ 奥院子子親善 △ 常行念佛堂  
 △ 本寺の経巻 △ 田村堂 田村の  
 △ 随求堂 △ 大坂大日 △ 地立権現

十七番 京籠山 六波羅密寺



本寺は八百日  
 文政八年  
 八百七年

本寺の十一面親善長一丈天曆又  
 年用山堂也上人作 ちん七十八

十八番 京籠山 頂法寺



寺南の堂取遠  
 文政八年  
 八百七年

西国名所

八十一



本寺の如く論観音念像長き寺  
八分法蓮の御願より出現尊像を  
子弟念持佛の御名あり

十九番

系 草堂  
天名 祈願寺



本寺の御内なる御  
願の御願と  
八百八十年

不空す千子親善長八尺軍基長  
上人地實の二年建立 ちれせ

今熱地より草堂を造るまで乃前

とありて又東山ありて乃前

盤ふふもふく小戒世とあつて

えういづもの所なりてとんま

世小波舟小舟りりの大旗足船と

ありて一をりりしるの業因なる

やうせふすまじまをををををををを

あつては妙をふありぬ小舟を

あつては妙をふありぬ小舟を

あつては妙をふありぬ小舟を

あつては妙をふありぬ小舟を

あつては妙をふありぬ小舟を

あつては妙をふありぬ小舟を

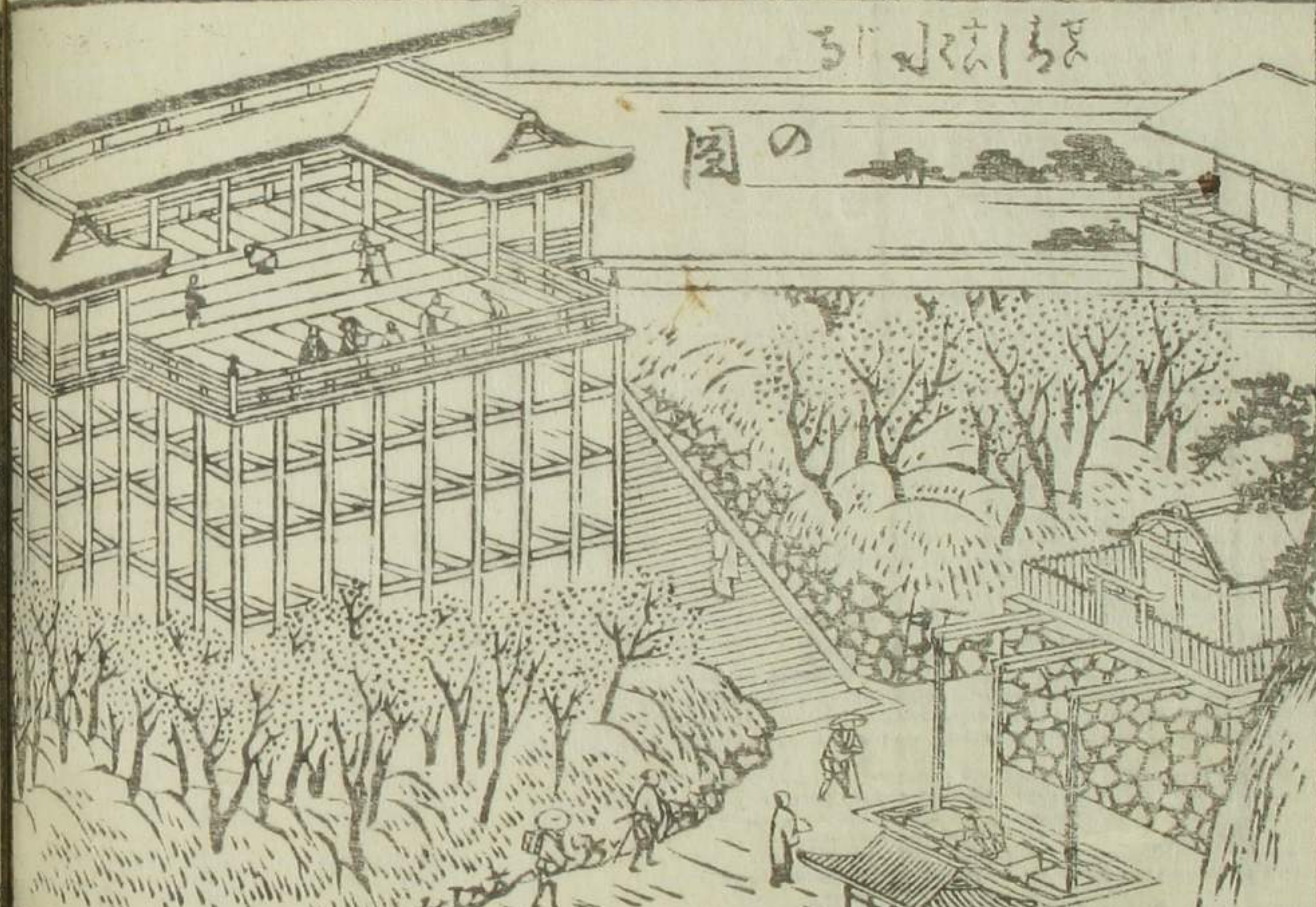
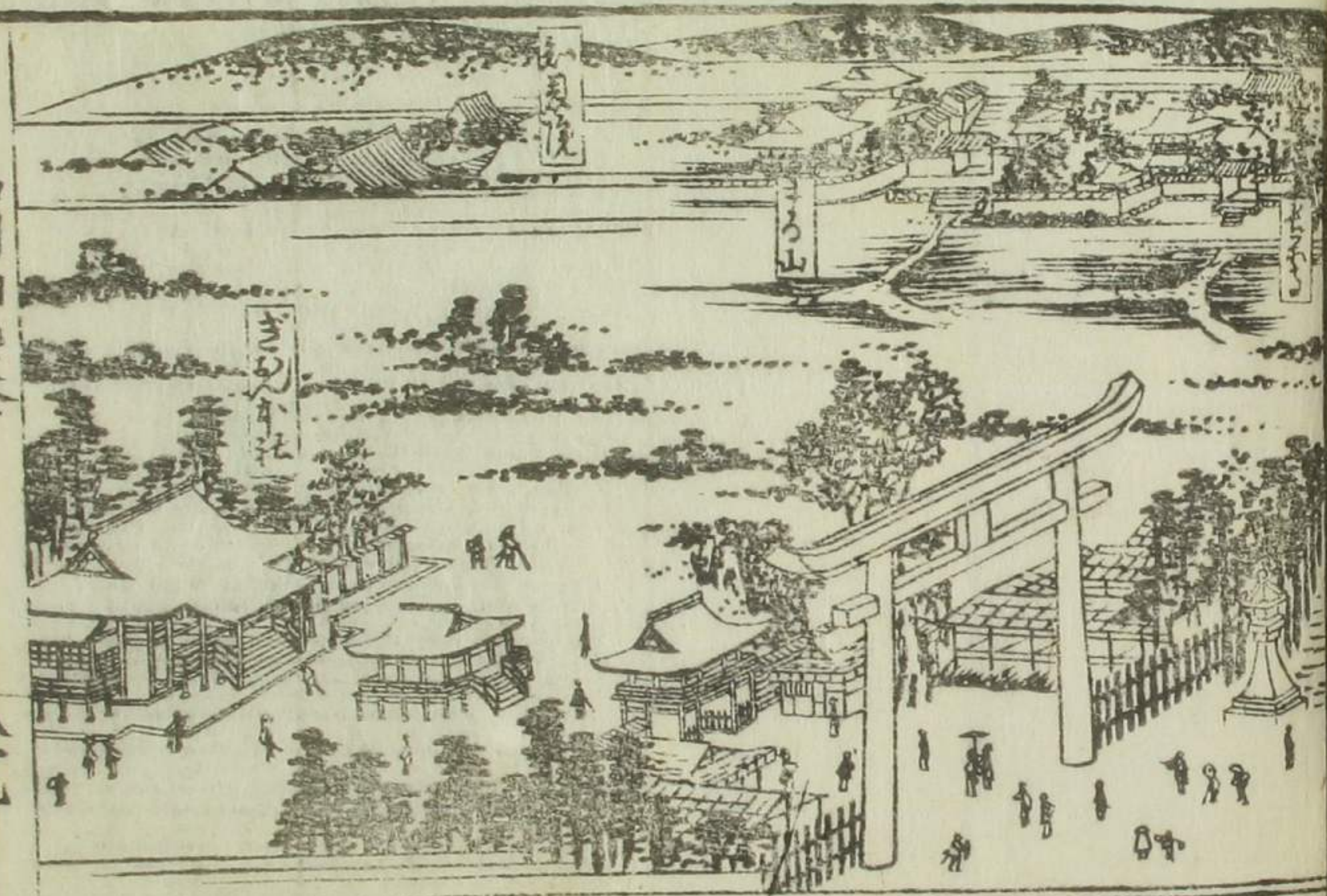
あつては妙をふありぬ小舟を

あつては妙をふありぬ小舟を

あつては妙をふありぬ小舟を

西国名品大鑑







ありたる所身を後回ふあらすめ  
 〇内の小舟の志らくくの戒がたれ  
 もありの志をしを巴のままととああぐ  
 〇朝あききよりよりみみののりり廿八丁  
 〇ああごご越越逢逢ううらら丹波定定ををいいりりす  
 〇大江坂坂越越ああららくくみみりりす

東東よりよりししねねるるゆゆききああららすすとと死死ス  
 三條大橋より東寺口口にに像像とと一一りり七七丁  
 是是よりより所所祭祭ののままりりああらら〇〇世世取取寺寺  
 △和泉式式のの春春のの春春△幡幡葉葉脚脚△徳徳天天  
 神社△口東東乃乃坊坊△終終墨墨北北之之後後所所△  
 仲仲見見吉吉△周周湯湯葉葉脚脚△高高吉吉葉葉脚脚△  
 〇西西本本取取寺寺△東東本本取取寺寺△奥奥山山吉吉  
 △西西本本取取寺寺△東東本本取取寺寺△奥奥山山吉吉

八幡寺八幡山山のの後後國國吉吉とと号号すす寺寺  
 弘弘法法子子世世不不常常也也古古大大内内裏裏鴻鴻臈臈  
 館館なりなりとと後後涼涼天天皇皇弘弘仁仁十十日日年年弘弘  
 法法大大師師小小ののひひままのの乃乃備備ととぶぶののひひぬぬ  
 令令是是葉葉脚脚請請書書大大目目令令食食也也子子子子親親也也  
 河河野野取取寺寺弘弘法法大大師師大大重重修修又又智智葉葉脚脚法法守守  
 八幡大門門二二合合新新かかととつつををけけしし南南ととららつつ  
 出出たた西西とと方方口口丁丁ににはははは葉葉をを有有  
 園園をを在在後後東東もものの門門ににははひひ得得入入てて  
 けけしし南南ととららつつををけけしし南南ととららつつ  
 不不常常也也とと是是ををかかくくとと得得入入るる人人ありあり  
 〇河河野野取取寺寺古古大大内内裏裏河河野野取取寺寺ののつつとと

石田田代

八十八



旧津々今津家の少くあがりて  
に津家一りま **むすね** あり

吉祥院村 不系村 久世の橋 掛川  
橋文橋にて上久世村 兼之次  
大新村 下久世村 寺戸村 けしやう

向日明神一りま **下巻** 八町まの村

神社あり社内よりゆけりあり  
とわらび次井内村とて之橋  
たわらありたの樂生光畑とて  
とら子乃分あり たの人の樂生とて  
とつけり まの出入り 小塔村 あり 是を八町

二十番 山嶽國 **寺**



堂東の入りてせり  
くつ八年と  
七百十九年と

本寺の平子親善長八天仁法所  
作 ごう 兼薩院長久外年建立 冥山  
源義上人 ちん

○はらわく日り けり 外ノ畑 あり

よと津本巻の傍よりほの山とて  
とに町外り あり 方三三 あり  
まこと日又町 あり 小坂谷村 あり  
かとの畑と人 あり 枚谷 あり  
ハ津の あり 大道の あり 大道の あり  
大道の あり 大道の あり

西戸志書



つらた丹波田能乃太との畑乃  
けりふ山城丹波國橋乃

との畑乃一りかき **さぶ谷** 岩屋を

との畑乃出らるさぶり大なるつ

國乃い乃と出らるを町乃り乃太乃乃

へ神道乃り坂ありさぶ谷と人乃

るく別して難をこり夕暮なる

この畑乃岩屋乃けきと穀を乃

さぶ谷乃一り半 **中山** 岩屋乃

さぶ谷乃八丁乃り乃山乃乃乃乃

あうけ乃食乃と乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

中山乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
穴乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

廿一番 丹波乃 穴乃乃乃



乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

○穴乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

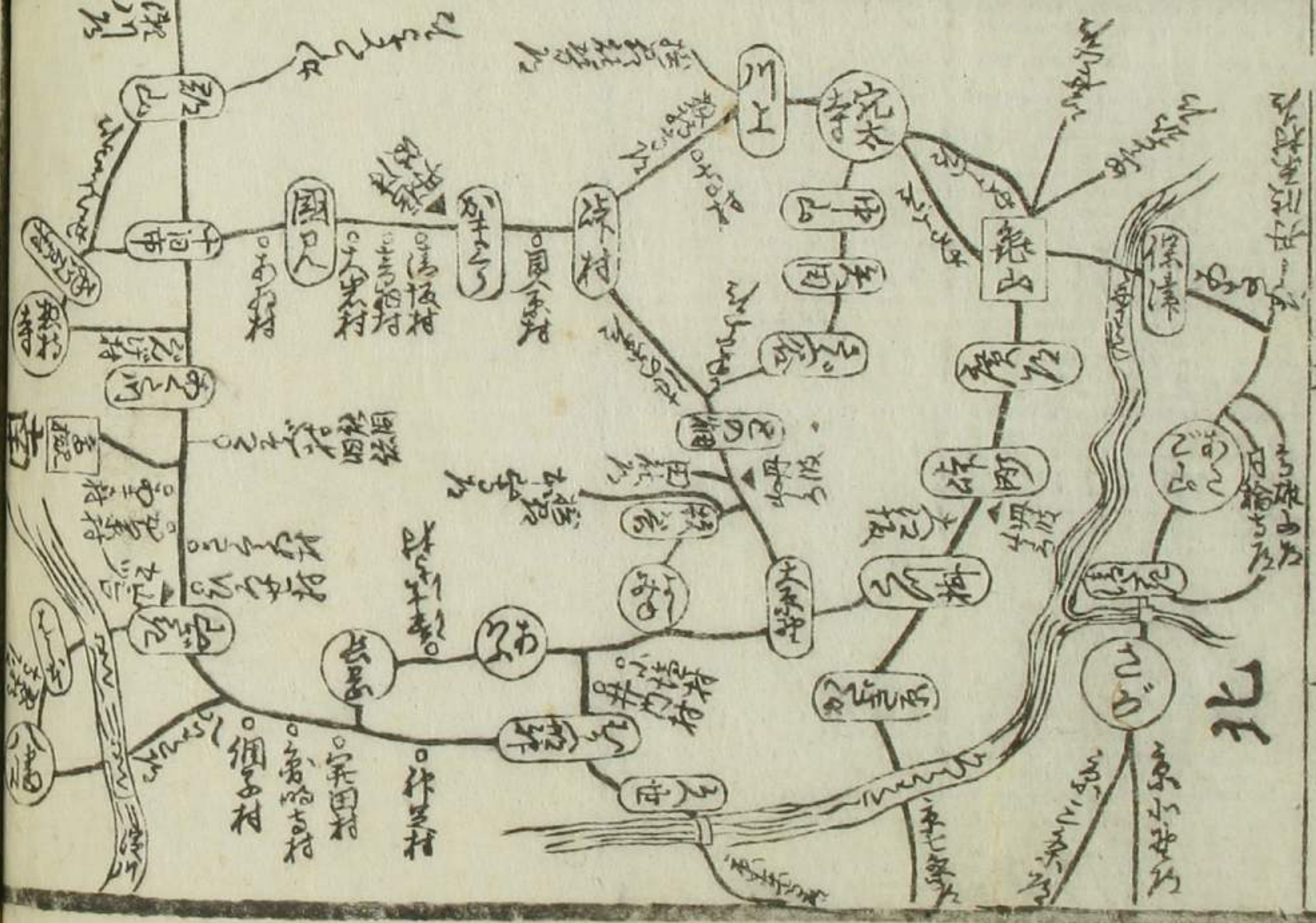
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃





○送赤大江板紙之京之穴太六六り

三條大橋七条通兼葎村一り

兼葎一り

七條村 川邊村 桂川邊

桂村 藤川邊村 宇治井村

松原一り

皆掛

松原出はふと小坂上りて方の

下あり是と下死てた方より

あり又此二町をた

皆掛 松原村

皆掛一り

此町

是より大江板紙の子安地

此町下りの峠ありてたの

是より



味町あじの一り

廣乃

宿業を之

町より寺丁後下りたの旁に増舟の

水と云ふ所あり板とありてその村

茶店村中志の旁に八幡宮は社へ建

武の乳と足利高氏系部たけのちのちの軍に致

北してけとへ落りり番付致事と

納めくはれはふりて遂に利生を

つゝある事いふ平紀に云々ありけ

村のわが村名は煙草と出すけ村

廣乃を半り 飛山 平英と名

る板村 柏系村 古橋 飛山系入り

飛山を半り 穴を古 飛山の町長

○送あわてこ裁はなを、

三條大橋を三系をすく下りてあり

上りて親親遊をねけり十丁

旧亦を湯を親遊考とゆりて

或はまふ山に名おとて一里

ゆりて見物一級味ゆふとるはし

石筋いづも海面の雲とて人

三條通する町筋をあげて

山の内村 系 次お米村 系 廣隆

古原徳太子は能小く春川務

建立合堂業洲め冬牛系を平比考

如と輪款者太子考聖徳太子傳挂

橋院太子十六歳出たありより出て

一町余のへはあり惟るはとりのけ

西國書全

九十三



舟の尻尾夫をこれに檀林皇居の所  
 送る小舟とて名散とて名散とて名散  
 一の結ふと名散子の結ふと名散とて  
 けはとすふけい名散の結ふと名散とて  
 親遊堂小舟車及小付てたけい  
 村本所夫の舟小車折明林の社を  
 借五道の真宮とて名散の舟とて  
 日天所仍角余の淡丹波を名散  
 船符の法とて名散の舟及川と名散  
 窓園所名所夫の舟及川と名散  
 橋の淡月橋川は名散大井川名散  
 の流とて名散小舟及川名散  
 難所の流と名散名散今名散  
 かり千名散名散の舟と名散

太の方僧と名散名散名散名散  
 橋とつりてたりは名散名散名散  
 虚や名散名散名散名散名散  
 名散の方名散名散名散名散名散  
 窓園所名散名散名散名散名散  
 寺まで八丁ありは名散名散名散  
 入込名散名散名散名散名散名散  
 親遊堂名散名散名散名散名散  
 日比山名散名散名散名散名散  
 三條大橋名散名散名散名散名散  
 二条名散名散名散名散名散名散  
 北名散名散名散名散名散名散  
 妻と名散名散名散名散名散名散  
 内名散名散名散名散名散名散



又三條大橋より門程と彈正一あり

沙門と出く小野く新をよ六角

或ハ門程以下階次上か茂次

大徳寺より文、成り今まけ

七文、仍乃ち方入込上野村

茂新の妻若磐おれ旧治生

九喜酒の舟を七文西門出て

層々客といふをより合客

新次平陸の社次小陸と出る

より以上乃法助の事のかこ

板小野、すまふ春る人ち天満

位の小川り出て平陸社、あり日

南のつより武大なる居るなり

格陰り小陸よりすまふ春る人ち天満

曾お流は是利家の業徳取之依

將軍の内親を以小統妻吉細川

衛元は建五是より南小出て妙

ち小門ありけり小宮御居こ

妙をさる物の人ハ小門を今く南

表のつ出つあを西は方り熱門の

西村中と大山の方小宮あり

双のま名而と林藤小急好注

旧徳有妙を等く移ハ新度格丁

りりあり妙をちハ花置院法

白きの内殿をま候采山園山園

小婦へくもくが妙を小高ふ

花を妙をちとい入

御宮門の村中と系を

西園地

六



仁和寺ハ寛平法皇の御所也

故小南宮の御所と云候門樓處

花の比らまは然の松を裏と候也

例年三月廿一日の御供ふり候

此殿に離人の御足と候なり

此所村にづま太の方より離宮を

すまふり小坂と候なり

唐沢の池 傍小南宮の御所

家方すまふり新遊寺あり候

おほ小南宮なり

新遊寺清涼寺中寺田と候

唐の化未梅檀の書本と候

三國傳來れ名傳なり

新遊寺に十丁一寺あり

是より下候我天龍寺に候

依りて龍山小見也

新遊寺を裏門の中院也

町中へ裏小南宮に定家の通家の

の御所あり中院也

小金山二寺院本寺に候

まゝは故上人足田の御所

の山小定家の御所

次は生院新遊寺の御所

生院新遊寺の御所

故妓に女佛の御所あり

一寺あり

武板十丁あり

橋掛と云候

新遊寺











介さぶ谷まで此る人家なり

さぶ谷より一里をこの畑 宿屋は

ける山坂 中野 ありてありて一人家なり

さぶ谷の宿屋 宿屋は ありてありて一人家なり

及ぐ 及ぐ 畑 畑 ありてありて一人家なり

この畑より一里 八丁 ありてありて一人家なり

是よりより坂人家 丹波 ありてありて一人家なり

より 丹波 ありてありて一人家なり

たふ 丹波 ありてありて一人家なり

○此處 山城より一里あり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり

ありてありて一人家なり



新中法山八幡宮 萬葉集未記  
多し坊敷口十條 社領子八百名

山より西ゆる 惣持寺 惣持寺  
橋本江渡と越て 橋本村 惣持寺

山崎より石川 石川 石川

河中央の山下 小寺 小寺 小寺  
親善寺 小寺 小寺 小寺

維文八幡文おの 山崎 山崎 山崎  
唐津村 橋井村 橋井村 橋井村

次左の方より 惣持寺 惣持寺 惣持寺  
惣持寺 惣持寺 惣持寺 惣持寺

石川より 石川 石川 石川  
川をぐらび村の 惣持寺 惣持寺 惣持寺

北二番 惣持寺 惣持寺 惣持寺  
天名 惣持寺 惣持寺 惣持寺



本寺の寺年 惣持寺 惣持寺 惣持寺  
の地蔵を 惣持寺 惣持寺 惣持寺

惣持寺より 惣持寺 惣持寺 惣持寺  
石川 惣持寺 惣持寺 惣持寺

西に系村 惣持寺 惣持寺 惣持寺  
まゝの人 惣持寺 惣持寺 惣持寺

惣持寺より 惣持寺 惣持寺 惣持寺  
惣持寺 惣持寺 惣持寺 惣持寺

惣持寺より 惣持寺 惣持寺 惣持寺  
惣持寺 惣持寺 惣持寺 惣持寺

惣持寺より 惣持寺 惣持寺 惣持寺  
惣持寺 惣持寺 惣持寺 惣持寺



西國雜地

百

# 北三番

持津國後頂山  
其之 脇尾寺



寺南のせらり田面  
文政八年  
八百九十二年

本寺の子子親善立像八丈好親  
作 岡山若伴を拜宝應八年  
死に開成王

○中山寺とて名にり十一丁  
月半面紙 肥り六丁

中山寺とて名にり十一丁

脇尾寺とて名にり十一丁

白井寺とて名にり十一丁

池田寺とて名にり十一丁

池田寺とて名にり十一丁

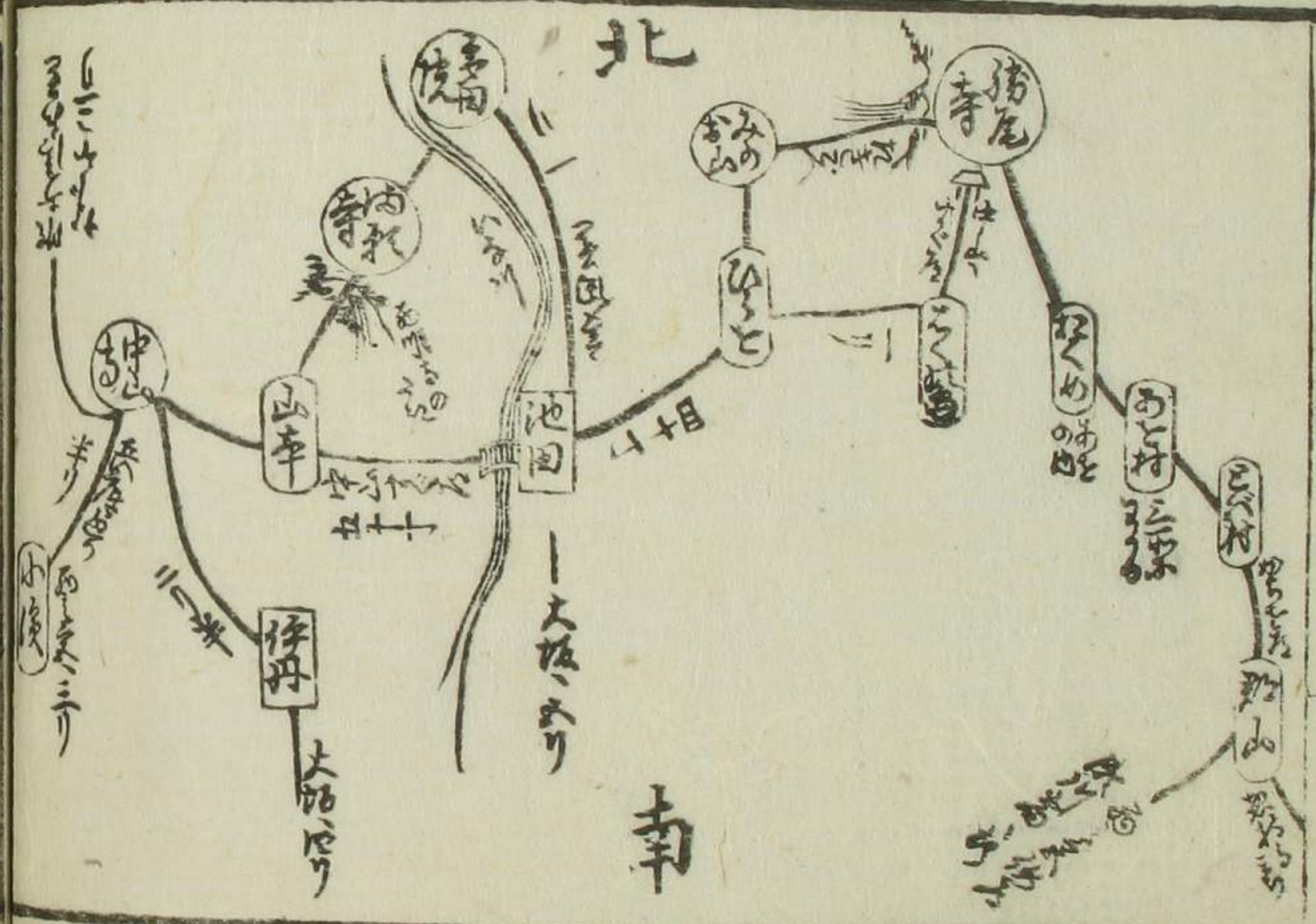
## ○真面目山流ぐ入道

脇尾寺とて名にり十一丁  
け道細く難西に天り  
乃が下達石の人  
の人ぬ天り  
乃くお村  
坪の流の上あり  
寺ありけ  
松樹を  
之は十八  
辨財天の社  
十丁  
多田流  
多田寺

五十四

百





多田院の源家此神廣之市松多田  
 権現の源満仲の妻林之相殿親  
 光親伝親義家以上皇太子  
 系ら△満仲の満仲の子息  
 九のもなりなる十手親青境因ふ  
 仲身幸有九のふ境あり此を明  
 ち此院は山本村をたてて  
 西国志

北四番

松澤園は東山  
 中山寺



寺を南の西なる七  
 子の百九十九

本寺の子の親者長又又寸雪徳  
 去子の建立法寺より十  
 岩室の内小庵慶大皇一  
 西国志



字と地獄 おとすやと誓ひた  
死と性の上人お換けを心と  
全といふ事おふ初めの人をさる

○中山寺の明打接広清水を

他一けたるおひやけ度おさるる

中ふふ二りおたす

名極ふ二り

けり川ありぬこ

三田

ふく徳

おねの

立ち心

清水寺

○清水寺の山をいふ

廿五番

接子ふが山  
天名 清水寺



おの九男は面がけ  
千九十年

本寺の子の報告を長久寺の基

の作商ありと御徳をよの心

中興光長上人を御又平再建せ

らる他一興院と申さるるあり

△興院十二面観音は地人建立

△系所寺 △お保院をへる

△田村寺 △清水寺

○清水寺の山をいふ

おの所をさるる又次の山をいふ

清水寺十八丁

坂本







坂本の一り寺

三の池

宿

三の池

三の池

宿

依保社

高島

宿

高島

高島

宿

繁昌

東坂本

宿

東坂本は法花山六丁

北六番

撰摩綱 一乘寺



堂南の九号四角  
文政八年  
九百九十年

本寺より子親青長を以て天  
開基法乃仙人白維元年建立

△阿弥陀堂 △三重塔

△興院開山堂 寺伝百廿八

○法花山寺 山十丁あり

日所なる宝殿を根より入り  
但し法花山寺を根三の

法花山一り

大がま

宿

大がま一り

野か

宿

春日野

尾村

宿

尾村二り

坂本

宿

坂本小女人寺あり是は山十丁

北七番

撰摩綱 圓教寺



堂南の十号四角  
文政八年  
七百九十二年

本寺より子親青長を以て天  
安法乃著の作永延元年建立



上人<sup>つら</sup>軍墓<sup>つら</sup>△<sup>つら</sup>釈迦堂<sup>つら</sup>△<sup>つら</sup>文殊堂<sup>つら</sup>  
△<sup>つら</sup>あふだま<sup>つら</sup>△<sup>つら</sup>奥院<sup>つら</sup>兩山<sup>つら</sup>沙<sup>つら</sup>紀<sup>つら</sup>考<sup>つら</sup>  
寺<sup>つら</sup>八<sup>つら</sup>百<sup>つら</sup>年<sup>つら</sup>石<sup>つら</sup>

○<sup>つら</sup>新<sup>つら</sup>宮<sup>つら</sup>山<sup>つら</sup>古<sup>つら</sup>來<sup>つら</sup>相<sup>つら</sup>、<sup>つら</sup>外<sup>つら</sup>十<sup>つら</sup>七<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup>

死<sup>つら</sup>け<sup>つら</sup>る<sup>つら</sup>事<sup>つら</sup>い<sup>つら</sup>ま<sup>つら</sup>と<sup>つら</sup>通<sup>つら</sup>ら<sup>つら</sup>ば<sup>つら</sup>進<sup>つら</sup>を<sup>つら</sup>改<sup>つら</sup>字<sup>つら</sup>は

新<sup>つら</sup>宮<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

つら<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

前<sup>つら</sup>の<sup>つら</sup>庭<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

板<sup>つら</sup>坂<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

多<sup>つら</sup>河<sup>つら</sup>と<sup>つら</sup>入<sup>つら</sup>大<sup>つら</sup>河<sup>つら</sup>と

庭<sup>つら</sup>が<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>方<sup>つら</sup>へ<sup>つら</sup>り つら

あ<sup>つら</sup>ら<sup>つら</sup>が<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

け<sup>つら</sup>る<sup>つら</sup>こ<sup>つら</sup>川<sup>つら</sup>お<sup>つら</sup>つ<sup>つら</sup>あり つら

ま<sup>つら</sup>の<sup>つら</sup>み<sup>つら</sup>も<sup>つら</sup>二<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

け<sup>つら</sup>る<sup>つら</sup>川<sup>つら</sup>あり つら

の<sup>つら</sup>り<sup>つら</sup>が<sup>つら</sup>池<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

▲<sup>つら</sup>播<sup>つら</sup>戸<sup>つら</sup>他<sup>つら</sup>る<sup>つら</sup>玉<sup>つら</sup>境<sup>つら</sup>

山<sup>つら</sup>は<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

の<sup>つら</sup>庭<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

け<sup>つら</sup>る<sup>つら</sup>川<sup>つら</sup>あり つら

竹<sup>つら</sup>田<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

け<sup>つら</sup>る<sup>つら</sup>川<sup>つら</sup>あり つら

梁<sup>つら</sup>瀬<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

け<sup>つら</sup>る<sup>つら</sup>や<sup>つら</sup>く<sup>つら</sup>登<sup>つら</sup>と<sup>つら</sup>り<sup>つら</sup>丹<sup>つら</sup>母<sup>つら</sup>あり

か<sup>つら</sup>は<sup>つら</sup>が<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

▲<sup>つら</sup>他<sup>つら</sup>る<sup>つら</sup>丹<sup>つら</sup>波<sup>つら</sup>國<sup>つら</sup>境<sup>つら</sup>

え<sup>つら</sup>と<sup>つら</sup>一<sup>つら</sup>里<sup>つら</sup> つら

仏<sup>つら</sup>谷<sup>つら</sup>

西国紀異全

百六







才や山尾

佐吉のふ十町 うへの 右邊を  
うへの

佐吉村出とつまをたひをい

上野 佐吉 坂十八町 下野上野

△ 伴母摩の山切利天上寺

本寺十一面観音摩の主人の

像 山崎 南山を弘の以赤

松園 山崎 は宗 山崎 楢 山崎 一 山崎

古徳 山崎 壯 山崎 三 山崎 と 山崎 船 山崎 三 山崎 と 山崎

是 山崎 三 山崎 佐 山崎 三 山崎

上野 山崎 一 山崎 半 兵庫 大澤  
山崎

中尾村 東徳寺村 上野

△ 布引遊雄六修 山崎 門遊遊

川下 山崎 生田川 山崎 川 山崎 下 山崎

ふかり 山崎 西徳寺村 山崎 沢 山崎 山崎 山崎

中尾 山崎 山崎 山崎 川 山崎 山崎 山崎 生田 山崎 山崎 山崎

△ 生田明林社 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

門 山崎 の 山崎 山崎 山崎 の 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

揚 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

次 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

の 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

兵庫 山崎 一 山崎 半 兵庫 山崎

町 山崎 入 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

あり 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎



左一の△吉野山に於ては、次々△平野  
園清聖の墓十二を祀る。是  
より少くも、其の墓ありて、亦あり  
た。此のまゝ、河原へ入ると、右の方、河原に

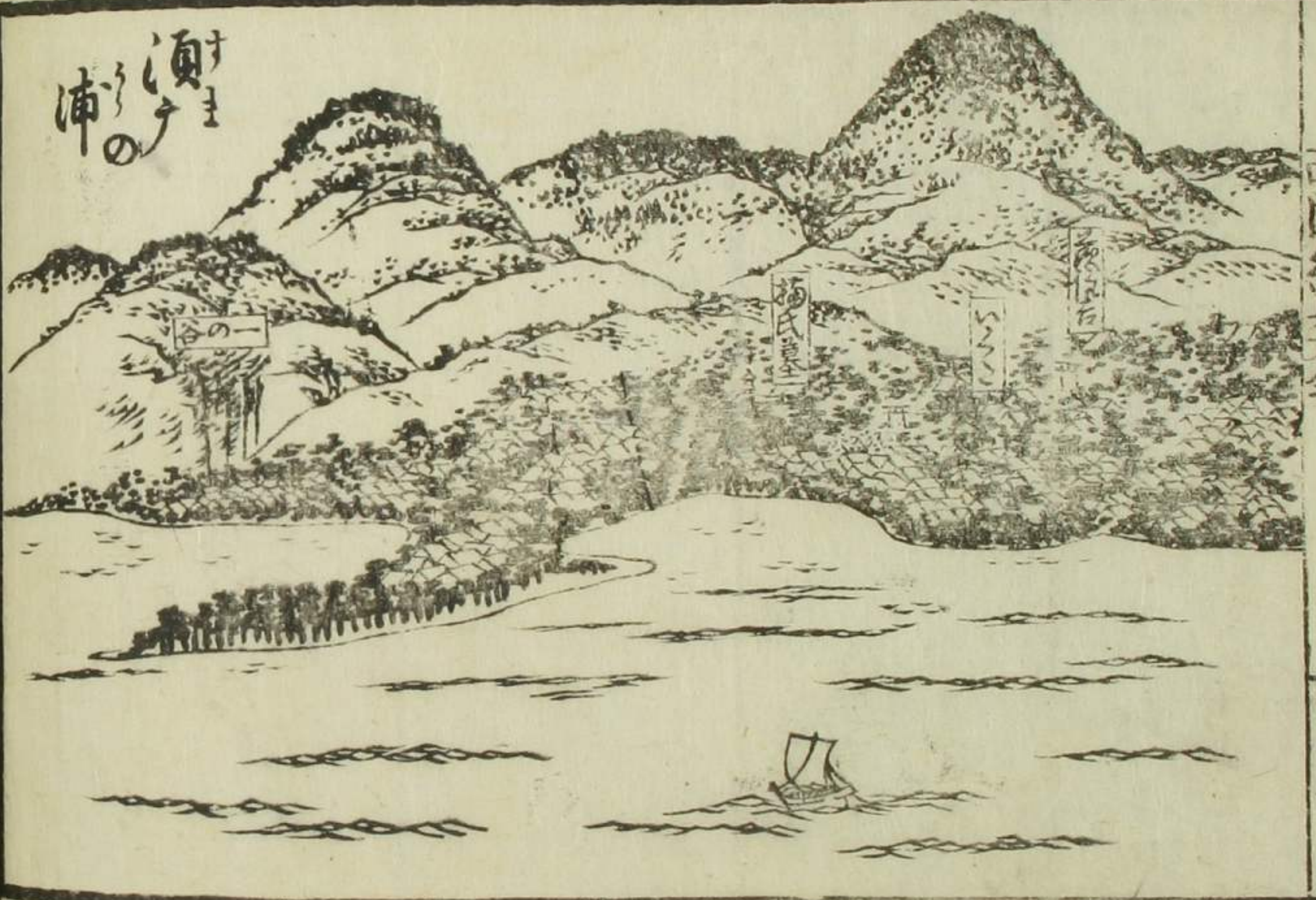
△和国明神の社あり。和国の神は、松  
通の道の傍にあり。河原にあり。小川の  
傍にあり。本宿にあり。出ると、本宿に  
あり。河原にあり。右の方、河原に△松  
凡村の古松は、平野の足にあり。  
次々河原の傍にあり。△網野天孫の  
社あり。河原にあり。右の方、河原に△河原  
門あり。此のまゝ

△次々寺上座山後祥寺と号す。本  
宿の傍にあり。河原の傍にあり。此のまゝ

茶の角 右の角 希きの制れり  
園林科 百洞境内に茶の角の傍に  
河原の左にあり  
中島の傍にあり。河原の傍にあり。此のまゝ  
中島の傍にあり。河原の傍にあり。此のまゝ  
△一夜系を許さる。門前の茶や  
次々一りま たるこ 茶をあり  
名をせす

△一の谷 △後の後揚堂 徳松  
松 △次々河原にあり。河原の傍にあり。此のまゝ  
三の谷 河原にあり。河原の傍にあり。此のまゝ





浦の頭

い思ふつゝお念之用心す七橋を村  
 雲水より半 あいの入見  
 岩を有

大谷

けおもろの常よりそいゆを室を  
 さぬまけ財ふまはたの方二千  
 雲山とそ雲と多く埋るるあり  
 仲夏天皇のつるのたを挿せを教  
 後述と信はあまや信用を記す

大谷 あいの入見  
 岩を有 明入 松平が監取  
 山後由喜区

け西の明入の岩屋町にも次河をハ  
 明入の町中者ゆゑに名川を以て  
 第一ありけ大谷岩屋の岩の  
 あり△人産は△ありたり△入  
 忠度の掾り△音村が楼と△い



ひう青余のう人丸の種ふ新種  
眼ひけしそ然とま並ふ不尋と  
却さら接こと又△今替人明林の  
門あふりあけのる出十四段也

本衝乃明石加古川に八丁(一丁)の  
長保(一丁)の

明石の一りま **大久保** 宿あり

かまう坂小久保六の善りの田  
大久保の一り **長池** 掃屋

。長池より本衝乃るの  
西谷一りま 西谷の野にまより 世の

加古川、まより 世の 加古川、巨峰二り  
巨峰の 西谷一り 西谷の 姫路一り

名新也りの  
長池の一り **別府** 宿あり

長池は口み野の清水村に付る  
たの野乃、以次二子村 宿あり

別府のまより **尾上** 桑原五  
別府宿古明林と枕の松又今之

次三溪の社天満宮まよこまの宿あり  
松林あり 継者の海也とも 平の

尾上の一り **高砂** 高砂又今  
尾上の社経吉の社におせのま

尾上は遠まよこまの宿なり  
是乃刀田鶴林寺八丁言妙の

すまよこまの宿、妙入の刀田より  
長田村の宿まよこまの妙入の

の乃、夜の出入十六丁の宿なり

△刀田山鶴林寺の宿、徳太子の宿

高砂

高砂



本寺の系仰が来りて石の可ふ  
高砂の一り 石の可ふ 高砂屋

入江川の石の可ふ越て高砂の町ふ  
かる高砂の神社おき此松あり  
かひて高砂大所田舎の寺を  
高砂井村

石室殿がすり 高砂 高砂屋

大石の寺高砂の二所法を  
高砂分二十丁 高砂 高砂屋

高砂天徳神社の松本松合指て  
古様を棟梁の松もの人集りて  
白くまを若葉を以て大目村がうら  
高砂の一り 高砂 高砂屋

高砂井村

高砂の一り 高砂 高砂屋

山根村 市川船渡とて高砂の町  
入江高砂を又お入江の寺あり  
高砂を以て高砂の町あり  
高砂 高砂 高砂

町の高砂二十丁 草細エタの町  
高砂の九徳あり 本高 中二かい町  
高砂の半高あり 草細三町

高砂の町 高砂の町 高砂の町  
高砂の町 高砂の町 高砂の町

高砂の町 高砂の町 高砂の町  
高砂の町 高砂の町 高砂の町

高砂の町 高砂の町 高砂の町  
高砂の町 高砂の町 高砂の町

高砂の町

高砂の町



北七巻 播磨國書寫山

坂本たがうの川を以て坂本の川  
川不登くくろの逢ふ川と誠を

坂中か二り **名村** 名村

川とこえて横美村を名 彦崎城  
位、初よりれよりと中島村  
松ヶ原のまて市川の川とこ

彦崎城 坂本の川越てたの方  
五小山村 平野出立家 名あり

△彦崎半歌天の社 高社の天と  
とくめく彦崎の土地ハ丁半

△増位山兼仰め東  
りてより山下と白園村 松ヶ原の邊あり

名村か二り **かたの** 名あり

名村地か二り **大かま** 名あり

大かま 一り **はたの** 名あり

畑村 はたの **名あり**

北六巻 播磨國法花山

六丁もの

東坂中か二り **はたの** 名あり

三石村 名あり

名あり 又あり 林あり  
て用かあり 名あり

名あり 下名村

**名あり** 名あり

名あり



高岡たかね一り

佐保社さくほ一り

是をたうし高岡を三町に河  
あり紅江に加高河の上を渡りて  
村端高石村佐保の町あり社あり

三つこみつこ 名有

三草みつくさ一り

三瀬みつせ 名有

丹波郡赤松郡内津屋ありけおの  
源平北義経丹波より向ひ是  
より鴨紙と云る也 豊義記  
三瀬みつせ 名有

坂本さかもと 名有

是を三つ一りのる人あき上鴨川村  
坂本さかもと 名有

此の事 播磨國清光寺

けし播磨國播磨丹波守國境と  
申すの事ありありありありあり  
中山より来るなり上へはるる  
道新成相寺ありあり

市原いちばな

右市みぎいち

清水しみず一りあり

小笠原こしかげ一りあり

右市みぎいち

右市町入口を大坂屋町と申す  
すゝあるた某相あり ころん村  
あり町村あり 矢代村諸大村あり  
あり村あり あり村あり 大坂屋  
二の原村あり あり村あり あり  
あり大山あり あり村あり あり



遷入いりこ一いちりりまま

ころまころま

名多なたたとと

かけなけ 名多 越後 正辨 礼のけしより  
早井く廿七丁 柳本村 三つ井 名多 名多  
名多 社 廿七丁 けい林の 名多 名多 名多  
と名多の 名多 名多 名多 名多 名多 名多  
つと井一と 市路く 廿七丁 名多 名多

田代たしろ一いちりりまま

たろたろ

名多なたたとと

大多おほた利り一いちりりまま

市いち路ろ

名多なたたとと

小多利 名多 名多 名多 名多 名多  
あり 柳本村 川上 名多 名多  
市路 一り 名多 竹田 名多 名多  
よう 名多 名多 名多 名多 名多

竹田たけ一いちりりまま

福知山ふくちやま

名多なたたとと

福知山 一り 名多 名多 名多 名多  
名多 名多 名多 名多 名多 名多  
名多 名多 名多 名多 名多 名多  
名多 名多 名多 名多 名多 名多

川真かま一いちりりまま

丹波たんぱ一いちりりまま

外へ宮みや一いちりりまま

外へ宮みや一いちりりまま

天照あまてらす一いちりりまま

右

左















市場方ニリ

松ノ尾 門あり

藤原村 吉坂村 あり 尾宿 あり

松尾寺 あり 十一丁 あり 門あり

例年四月七日八日大法会あり

近國を村より信賢 あり 吉坂松

尾宿宿 あり あり あり あり あり

昨日小舟の合服 あり あり あり

昨日小舟の合服 あり あり あり

必あり あり あり あり あり あり

廿九夜

丹後國 あり 松尾寺



寺南面あり あり あり あり

本寺 あり あり あり あり あり あり あり

▲高山の丹後美狭の園境

○松尾古竹生橋、十九リ

松尾古竹生橋 あり あり あり

松尾古竹生橋 あり あり あり

松尾寺 あり あり あり あり あり

松尾寺 あり あり あり あり あり

松尾寺 あり あり あり あり あり

松尾寺 あり あり あり あり あり

松尾寺 あり あり あり あり あり

松尾寺 あり あり あり あり あり

松尾寺 あり あり あり あり あり



















高尾山一甲寺

高尾

名

高尾山中仙居之宿禰宗なりて、  
うしなむ赤玉神、  
因之右の宿禰宗を系村体也、  
原村に二に下りて、  
ゆゑありて、  
文二十町、  
高尾山八丁

高尾山八丁

高尾山

名

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁

高尾山

名

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁

高尾山

名

世二義

高尾山 高尾山 高尾山



高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁

高尾山

高尾山

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁、  
高尾山八丁、  
高尾山八丁

高尾山八丁

高尾山



東寺村にあり長命寺と曰海  
 船ありとあり兼柳坂あり人  
 の安ふしあり知るまこといふ  
 安土の地徳意ん院に織田信長  
 の墓あり次大河村次西衣村  
 八幡寺あり寺

長命寺

山ノ下

此寺

とに長命寺

寺



寺あり七らの面  
 文政八年と一  
 子百四十二年

本寺の正親高長三人弘法大師の  
 作推古天皇廿七年御徳太子宗

奉命の御徳太子御徳太子宗

坂路八丁林蔵坊お徳太子の

け雨も雨も入海へのこと

何事をもをるなり

八幡寺ありありありあり

江頭寺ありありありあり

是よりありありありあり

江頭寺ありありありあり

東の陸海の奥にありあり

谷汲のありありありあり

夫の中仏のありありあり

が徳とありありありあり

石がまをありありあり

とんバ

名



すのけり味茶皮肌魚う

ま湯の三十所 **徳井** 岩

らま村 門松村 なる村 善三郎の

波野小東仲時一旗自善一とる

善三郎の山寺とくそこのおの山塚と

廻り村 二ヶ醒井

**醒井** 一ヶ **物原** 岩

醒井の清水名水昔日本武蔵守伊

吹山の毒院の氣一とらる熱ま

らふけ水し水屋を流しひ

やう醒井と名付目か武蔵守

掛石 地蔵寺 あま村 長谷村

**物原** 一ヶ **いま** 岩

長谷村今谷村あ村つき小泉

古形をけり味茶皮肌魚う

物原とくそこのおの山塚と

今頃一ヶ **関原** 岩

山中村 若入 京常 野の乳母

の石塚とくそこのおの山塚と

関の海川 **大関村** けり

徳との山寺とくそこのおの山塚と

関の山寺とくそこのおの山塚と

船より志さる人けり

いふ山寺とくそこのおの山塚と

らん女像を建てた山寺とく

**関原** 一ヶ **赤** 岩







あましくふら坂村に丁経行親書  
是後石之次公念佛池日橋大門  
の番宿多し

世三書

義深玉谷坂山

華嚴寺



堂南約五石正  
千十六年

かき十一面観音長七又五寸文殊  
の作は仏教真迹一過ひの書い  
つと常明の油にけし中の  
洞出の延替二年を徳上人團基  
魁主大会佐油に所諸多し  
と細め存多のおもそ後傍と

瀬海の文十念と標うけし  
後佛お三細め又盤を切く細め之  
標をまむ三標三細をよて信

○今津は北浦より谷汲出る  
作けしるるるるるるるる  
記す

今津の三り かいつ

海津の二り 太ら

大浦の二り 志不つ

塩津の一り 末の本

是の竹生島、まゝんとあつ人の  
子に死出るるを死かす又はを







堅田十八丁 こねぬ 若二あり

堀田橋津も殿の陣屋と浮世堂

子辨仏舟二艘 石平安 別会

本渡三三 仁保 若

是古仁保とのる村里のたむ

入はくがる船の宿事屋を

中之本渡より入六丁まで舟別川地

より大船の向ひ地を右方より

計りあり竹林の中を通る地のも

にふと古名もなるを流のま

らうたむと仁保村の側を舟りく

又川あり舟別舟の横川とよほすこ大

水ふ船は川と越して舟里舟り

てしる田村の中を通るこの村

酒屋あり又七八町まで仁保  
川の地より境を太の舟十町條  
里のなきをけお八橋を系漸々  
ちゆり舟の過るり止よりたへ  
川と越り

仁保一 八まん 若二あり

仁保町のつたふ江頭田中地の

あ村つたをけあ村も長部とこれ

山下と船あり入海一りこま

より八まんへ舟の地をけ二りま

船は一艘大群百五拾文位

八橋一 長命寺 山下宿

町中庭よりたりの八橋社ありけ

下ろし長命寺より船あり入海あり



こはより一りききあなりけり  
こはより一りききあなりけり

世々書 とにま 長命寺

○長命寺 長命寺 あり二り半

けり よちうらひ 入海きりぬる

もこの八幡へ出て町をたどりあり

西庄村大町村 常楽寺村を

津教授 あづちん のり あづちん あり

不 あま 寺 あま あり あま 寺 あま あり

小中村 あま あり あま あり

世々書 とにま 観音寺

観音寺 あま あり あま あり

たの あま あり あま あり

観音寺 あま あり あま あり

坂十八町 あま あり あま あり

川の あま あり あま あり

村 あま あり あま あり

常楽村 あま あり あま あり

丸尾村 あま あり あま あり

高文川 あま あり あま あり

高文川 あま あり あま あり

町の中 あま あり あま あり

あり あま あり あま あり

多 あま あり あま あり

後 あま あり あま あり



末社伊勢宮文 本宮に附ける  
本社寺の跡地は兼 社名をあら

町とさくたのりき横ひるを

日旗とあり大塚村を南に川を

地蔵村 志村 小登 百のりき

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村

志村 志村 志村 志村



右船賃定の介を船もさるに勿  
論竹生藩よりありゆりては小舟を  
りすく右の定竹生藩別当より  
當村船中へや付あつてさうり

三十番 左は竹生藩

竹生藩より 廿五、十七リ

長湊番十八リ

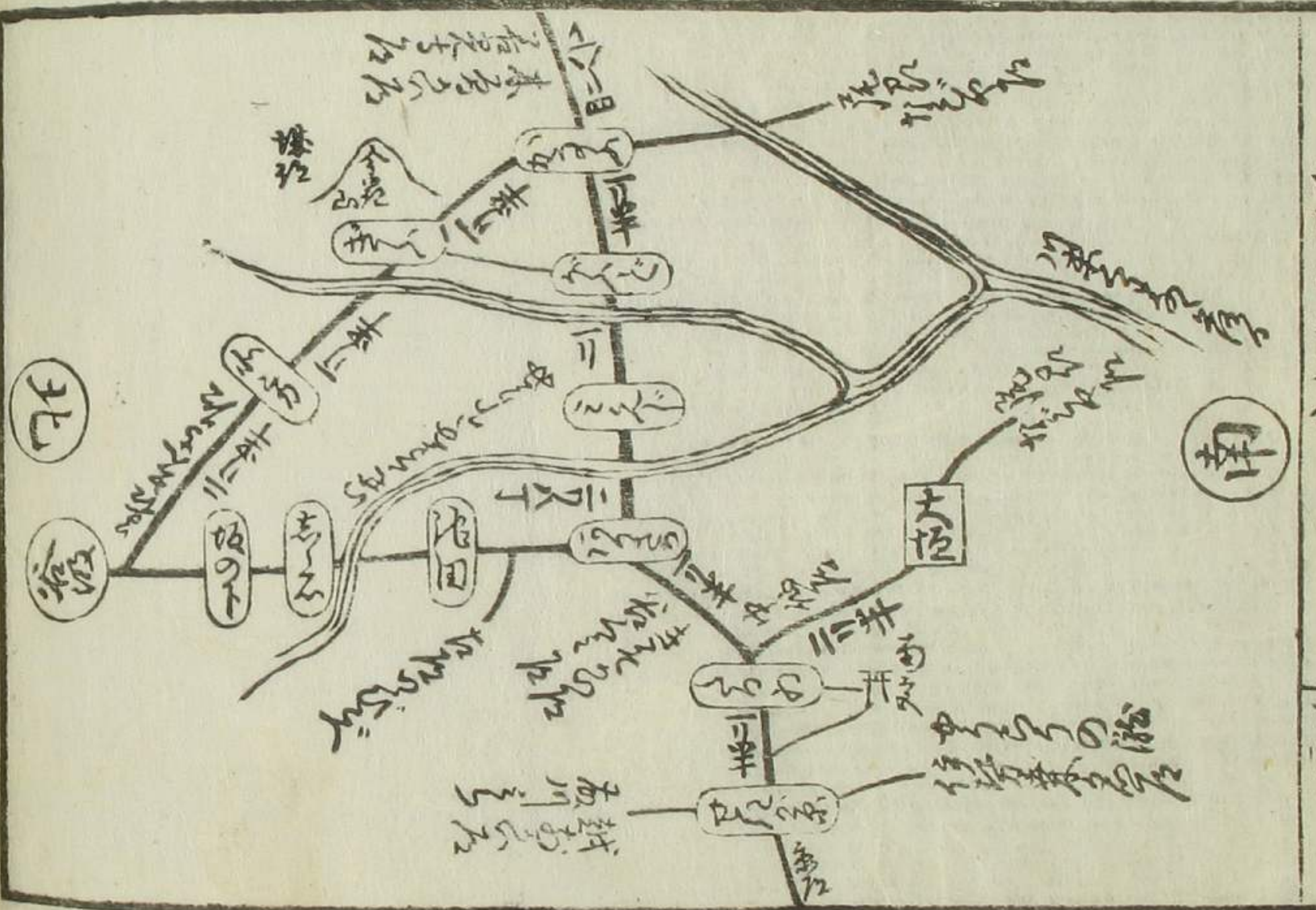
子崎の口りま 十八番 若

けり常は是日之けさるにあが  
淡泊共く長湊番のりあにれす  
る渡村御所を御出で右を丁  
斗の東横切在所を以て北町  
づりこに河村けりえん大洲内使  
けれ地を別えん大洲をさしあ

と南一町斗のり小川の傍とた東の方  
野道より内保村中と通りて  
東の林中を以て八町斗とて越お  
御道小谷とまゝ無のり野村の十  
町斗あり、おろおろこに河村えん大  
洲を立るまはけりとて子崎のり  
り御出をより大官道したる御  
山のりま無とのり川にあり  
まゝ無のり 一りま 右川 宿  
長湊よりあつては茶と出合を  
右川 一りま 宿原 宿  
冥ヶ原より中仙よりさうり岩波  
までの道法おふまると

井三番 美濃國 谷汲山





利根川谷汲と

明通合勢白二指里余

谷汲方江戸、東海道百二里半計町

本町路九十七里半

日所分善見寺、七十歩里

日所分京初、三十一里半

○言井山とては越無野道

但此山より山を越て改二下

△けし前又捨下きり 他山路ありの

大田門方一り 大田

水が深方 一り 水が深

水が深方 一り 水が深

けりたひし止

大田と分 一り あり

大田と分

あり



おとこ作弘法大師のすそく入る  
小舟大木とみし松と倒の委後うは

おやごやふ 二り うみり 名ニ形

うみり おがや 名ニ形

おがや たひら 名ニ形

けりる松文腰掛ふ赤方産川は川  
子本法とていふ  
法後いふより

たひら かんのら 名

川を船にじたたの方ふ二位中舟推

整のちる又い道は小松松助を

いへ士と舟推整ののま練とす

林の川 やぐら 名

とうし村日條と下右丁はやぐら  
なぐら やかい 名ニ形

西川村紅後一有 けりるありあり

柳 やだ 名

けりるを区板と下右丁は 板のまや

やだ かた 名

三新茶屋村 けりるし中たら

ふんが あやぐら 九リ八丁下 板のま

豆う 骨 肝 ふ

布 乃 連 理

大 乃 後 乃

は 乃 子 乃

は 乃 掛 乃

水 乃

新文方那智山五里

新文方那智山五里

新文方那智山五里



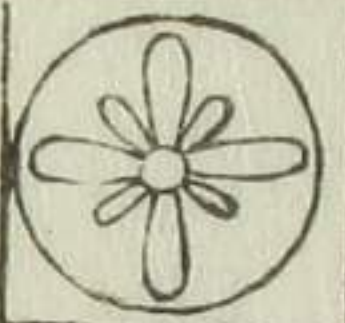
○谷汲よぶき 本宮池ほんみやういけ 日光山にっこうざん 江戸道えどみち

▲谷汲よぶき 山やま、二ふた里り  
かきせ川かきせがわ

▲やまのより かしふ、三さん里り

▲おききおきき 川がわのつとみ

▲かきせかきせ 山やま、  
四よ里り八はち丁ぢょう 百ひゃく日にち文ぶん



永井伊賀守ながい いがのすけ  
三さんカカニニ千せん石しやく 外とほ三さん里り 九く十じゅう七しち里り余あま

是こゝよりより本ほん宮みやう池いけ街まち石いし

▲之池このいけ新田しんたに▲新田村しんたにむら

▲物もの治ぢ山やま おりこ  
二ふた里り 百ひゃく八はち文ぶん

▲さつき坂さつきざか ▲さひき村さひきむら

▲お田おの山やま ふふ一いち里り、

二ふた里り 百ひゃく七しち文ぶん

古田川ふるたがわ めめららんん六ろく文ぶん

▲今いま津つ村むら

▲伏ふし見み山やま みみ々々、

五ご丁ぢょう、 百ひゃく一いち文ぶん

小こままききぶぶのの池いけあり

▲おお山やま 山やま、  
三さん里り 六む十じゅう八はち文ぶん

細こ久く山やま 大だい々々、  
一いち里り廿にじゅう六ろく文ぶん

▲一いちツつ家か山やまをを下くだすす良ら々々々々山やま

北きた々々々々々々山やまをを下くだすす良ら々々々々山やま

北きた々々々々々々山やまをを下くだすす良ら々々々々山やま



▲大久保おおくぼ 小坂

三ノ半

九十歩文

▲大工おおい ▲方かた ▲手て 村

▲大井おおい 小坂

二ノ半

八十歩文

▲さく

▲中津なかつ 小坂

一ノ半

七十歩文

▲上かみ 坂

▲藤ふじ 小坂 小坂

一ノ半

七十歩文

けりけり 川がわ 小坂 小坂

小坂

▲小坂こさか 小坂

二ノ半

九十歩文

坂さか 小坂 小坂

▲一ノ半

▲妻つま 小坂 小坂

一ノ半

七十歩文

▲中なかつ 村

▲みみ のの 小坂

二ノ半

六十歩文

▲志し 小坂 小坂

▲中なかつ 小坂 小坂

一ノ半

七十歩文

▲小こ 小坂 小坂

▲須す 小坂 小坂

三ノ半

九十歩文



▲とん坊 ▲五河 ▲海防隊

▲とまろ 二り半 六十八文

▲くひり ▲中半 ▲一力約

▲福 一り半 三十九文

けしおのり あり けしおのり あり

▲くらりの村

▲文の紙 二り半 四半紙文

▲たぐ村 あり あり

▲たぐ村 あり あり

一り半 三十九文

▲さるお味 一丁

▲ちんちん 一り半 三十七文

▲ながむ村

▲熱い 二り 四十七文

▲平岩村 あり あり

▲かきこのあり ▲櫻沢 あり

▲朝山 三十丁 十六文

▲エナれた村

▲洗る 一り半 三十七文

一り半 三十七文



此處の入口大田の清らき地  
ろとあひまひしりおあるとす

▲のむ村よりたき岩光とる

○まぐいしりる

まじりやう原

一リ廿四丁廿七文

▲塩尻の下のすへ

一リ半 廿八文

とろけあうをえん

▲新田村しらのこ

ねらう

▲村井のまのす

諏訪明神社

一リ半 廿四丁廿七文

とのもあり

▲平田村のす村

▲下塩尻のわごへ

▲松をのむごへ

五八丁百七十五文

一リ 二十丁

松を村たの山

温泉あり

あまの湯もどふ

松田岸の梅村

とろけあう

東坂あけあけ

▲関田のかりや原

あけのあけ

一リ半 六十丁

▲和回の長久

▲いさか村

一リ半 廿七文

▲あまの湯もどふ

▲中窪のあけ

▲新田のあけ

一リ半 三十文

一リ半 廿八文

▲新田のあけ

▲そのあけ

一リ八丁廿四文

▲かりや原

ふりり坂

▲あまの湯もどふ

▲あまの湯もどふ

▲あまの湯もどふ

三十二丁十七文

▲あまの湯もどふ

とろけあう

三リ 廿四文



▲合山坂

▲八幡がたき

廿七丁 十八文

▲の沢まきまき

らるる川

▲塩灘がたき

一リ廿二丁 十六文

▲下つうがたき

▲平のうがたき

▲岩村田がたき

一リ七丁 廿四文

▲小田井がたき

一リ十丁 廿五文

大田町 三十三丁

十八丁 十九文

▲磯山がたき

坂中 三丁 廿五文

▲ふじがたき

廿丁 廿四文

▲長畑村がたき

▲中村がたき

▲高柳がたき

一リ十丁 二十八文

▲新田村がたき

毎一丁 廿四文

▲作の二丈がたき

廿七丁 廿五文

切あきし

○ 進

▲砂原村がたき  
▲七丁 廿四文

▲尾見より 三丁 廿四文

▲三丁 百十二文

▲おとがたき

▲とがたき

▲市のがたき

▲板よりがたき

▲さるがたき

▲らるるのがたき

▲人のけ平がたき

▲かゝるがたき

▲つたがたき

▲んがたき

三丁

七十丁



▲やぶ村 一本木けりきこ  
○とひりけり

右江戸丸善光寺  
のりきりけり

▲志の保 ▲とろく ▲まき村

▲菫さき ▲ふせさき ▲南さき

▲北島村 けしと合戦畑とり  
西条山とる

▲丹波 若光寺

一リ十二丁 三十三女

▲川とぶ針十丁 づりからと

とろろ番のちもありあはし

二ヶ所 井もあつてあつてあひ  
とけりけり川中

右戦場たのふ川とまらると  
小市のわきもあり

▲鳴子村 かくやんを親みの  
地あり

▲町 若光寺 門前町

▲大門 とう本をまてはまのあは  
大木をわきもあつて

▲二ツの浦 舟をもち 寺中 半吉  
樓門 文殊井 ほど大船を

別を 天台宗 柳井 千石  
寺を 東西 十八 南 山 二十

とろろ 西 南 山 二十

▲本寺 三國 徳政 弘治 徳政

▲光善法 弘治 徳政 弘治 徳政

▲光善法 弘治 徳政 弘治 徳政

▲光善法 弘治 徳政 弘治 徳政

▲光善法 弘治 徳政 弘治 徳政

▲光善法 弘治 徳政 弘治 徳政



新海船の年帳あり

本寺とあるはそとより戒壇

本寺のりちをいふこととらる

念佛とあるは二つにまらう

元の蔵へあつたり

○此處の石像のたりま

○一系、九十ふり

○江戸、又十九りるは舟

▲若光寺 丹波志保、

一り十二丁 あり

▲川 あり

▲丹波嶋 中

三三 七十三文

▲あひまけ、太系たう江戸

らる川より船のり

▲川半 三十九文

▲地蔵 志保

▲戸倉 ころま、

一り半 三十九文

け富下あり九日より下

屋あり十日より下

▲ころま ころま、

三三 七十三文

▲田舎 中の系あり

▲とこと 合井

▲あまみゆうとらる

▲あまみゆうとらる



▲上田うへヶが りんの

二リ 四十七文



松平伊賀守上田平伊賀守

▲あり村 ▲神河 ▲岩下  
▲大庭

▲らんのる 小こととく

三リ 八十文

▲田中 ▲かきこ ▲ふくや

▲かきこ 谷川あり ▲あやぶき

▲かきこ ▲あま ▲とら

▲あき

▲小こ備びヶが ああひひく

三リ 八十文



牧野遠江守上田遠江守

▲乙女坂 ▲河家 ▲志しるる坂

▲平へ岩い ▲十じ石い坂

▲ませせ村 ▲三さんツつ家 ▲ああのの川

追お分わ 小こののああとと双す方はをを

追お分わより 三さんつつけ

一リ三丁 廿に五ご文

きそきそののああききののああきき

ははああののああききののああきき

留り掛かヶが かつかついい坂さか 廿に五ご文

一リ五丁 わわああののああききののああきき 三リ



▲ 輕井沢かるわいざい ところへ

二り半八丁 八十八文

けさ目守の足まらちの湿地ぬかの志  
又穀石こくしの地なり

▲ せりころ ▲ うしろ下

信濃上野のふらうし

▲ 山中村 ▲ のそきい

▲ 坂本さかもと まつえい

二り半 五十七文

▲ 横川よこがわ 山崎新町の系けい宿しゆく日ひ

妙義山めうぎさんにあり ▲ 小山こやま

▲ こせうの平へい ところへ

▲ なりの村

▲ 雲くも坂さか あん中あんなか

一り半丁 四十七文

たろろま山やまあり

▲ あまろろ 太ちぎ山やま

▲ 八本木村やっぽんぎ 江戸まで坂さか

▲ 女中にようぢゆう いんあみ

三十丁 拾七文



二万石 板倉君佐渡守いとうのり  
下谷池しもやいけのこ  
江戸えどより  
百五十石ひゃくごじゅうし

▲ うしろ川 二ヶあり

▲ 板いた 白しろ 三十八文

一り半丁 ▲ 岩いわ あり

▲ やろ村 ▲ 岩いわ あり

▲ うしろ川



▲高野寺 くららの

一リ十九丁 廿八文



七方二千石  
松平左京大夫  
江戸府  
廿二リ余

けあより日光山をる

きんせ新十八リ余

細山をく細ぼろし山坂を

▲岩をる ▲中をる

たまたま橋を たらぶら

▲猪沢

▲会合の せんり

一リ半 三十一文

○日光山をる けあより

▲いとけみ

○うす川を中宿

▲新宿の本宿

ニリ 三十九文

▲石川村

▲本宿をふら

ニリ九丁 五丁半

▲むらさ村 ▲地田村

▲北山川 ▲まぶ村

▲深谷を宇まへ

ニリ卅丁 五丁半

▲新宿を新あま

▲新谷をかのす

四丁八丁 八十文

日光山道

▲くららの

▲なま村

▲こま

▲石川

▲志を

▲川

▲本をき

▲た田

▲新田

▲城を

▲山

▲八本

▲城を



▲慈光寺 ▲久下村  
▲吹上村 ▲この村

▲鴻巣方 おけり  
一リ九丁 二十六文  
たこもは日光石

▲揃川方 あげと、  
三十丁 十九文  
▲吉村 ▲本村

▲上ヶ尾方 大久、  
二リ八丁 二十九文  
▲むら河 ▲と河村

▲大久方 くら、  
一リ十丁 二十文  
▲水河明神

社領 三百石  
大久方系 三十丁  
中絶、系あり

▲浦和方 つび、  
一リ半 廿七文  
▲志らく村

▲蕨方 つば、  
二リ半 廿七文  
▲戸田 とも川

▲板橋方 江戸、  
二リ 廿七文

▲十ヶも

川まき

▲この

▲大久

▲むら

▲おれ

▲あき

▲かぬ

▲ふた

▲今市

▲日光山

▲中見

▲大沢

▲徳江

▲此

▲うの

▲すの

▲小全

▲小

▲小

▲小

▲小

▲小

▲小












西國紀略

卷三

文政七年甲申十月 御免  
同 八年乙酉十月 開版  
天保十年己亥正月 購版  
同 十年庚子四月 增修

著編 俣野通尚翁 

刪補 池田東籬翁 

畫音 森川保之 

原版主 京寺町通松魚下町  
菊屋喜兵衛

諸國海陸道中圖記株主  
現當 京都六角堂三町東  
版元 平野屋茂兵衛

諸國 攝陽 河内屋茂兵衛  
揜皮屋善作

道中 東都 須原屋茂兵衛  
山城屋佐兵衛

圖記 岡田屋嘉七

三都 坂本屋喜十郎

三府 紀府 帶屋伊兵衛  
總田屋平九衛門

發行 尾府 永樂屋東四郎  
杵屋善兵衛

書林 水府 須原屋安次郎  
某又屋治兵衛  
皇印 子京屋好兵衛

38-758



